

第2章 三戸町子ども・子育て家庭を取り巻く状況

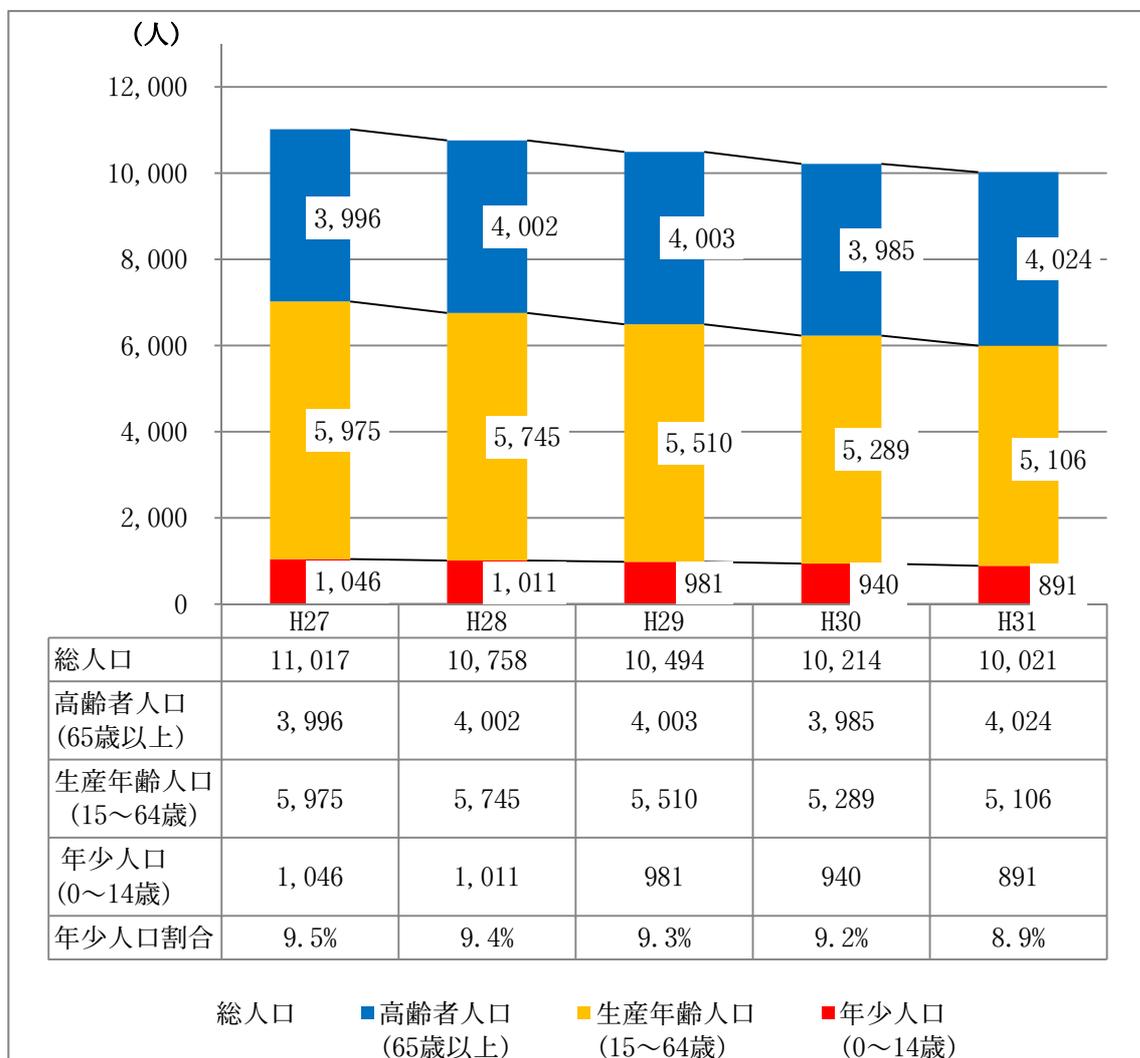
1 人口動態と少子化の動向

(1) 総人口と年少人口の推移

本町の人口は、平成31年は10,021人で平成27年の11,017人から996人減少（-9.0%）しています。

年少人口（15歳未満）は、平成27年の1,046人が平成31年では891人となり、同年の総人口に占める割合は8.9%で、減少傾向で推移しています。

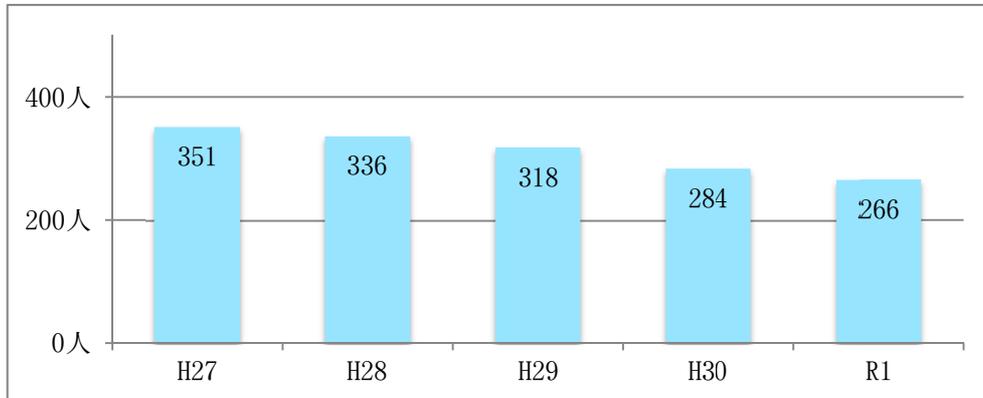
年齢3区別の人口の推移と年少人口の割合



(三戸町住民基本台帳：各年4月1日現在)

(2) 就学前人口の推移

本町の就学前人口は、平成27年は351人でしたが、平成31年は266人（85人の減少）で、減少傾向が顕著な状況となっています。



（三戸町住民基本台帳：各年4月1日現在）

(3) 若年女性の人口の推移

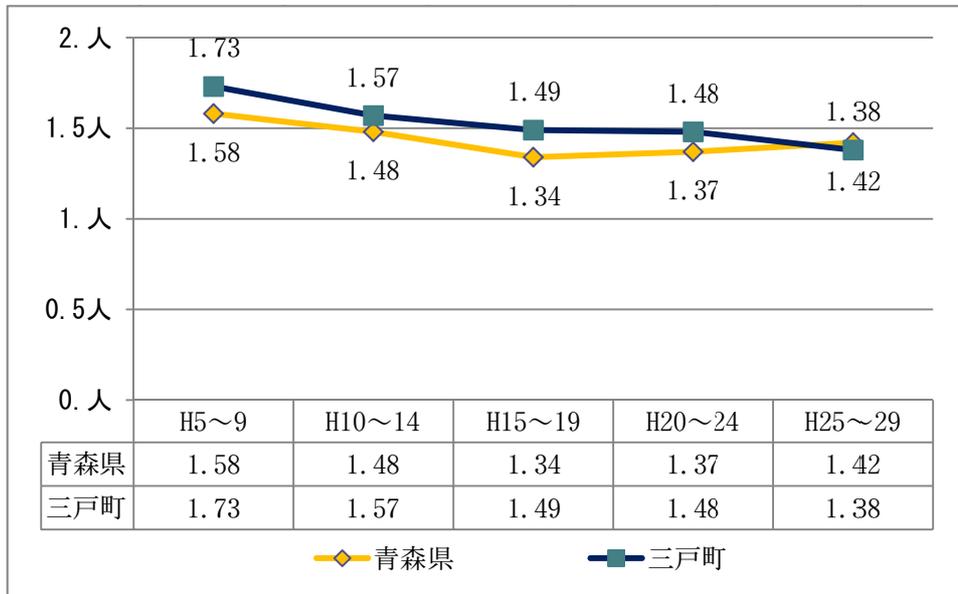
本町の子どもを産み育てる可能性が高い若年女性の人口の推移は、下図のとおりであり、減少傾向が顕著なことが分かります。



（三戸町住民基本台帳：各年4月1日現在）

(4) 合計特殊出生率の推移

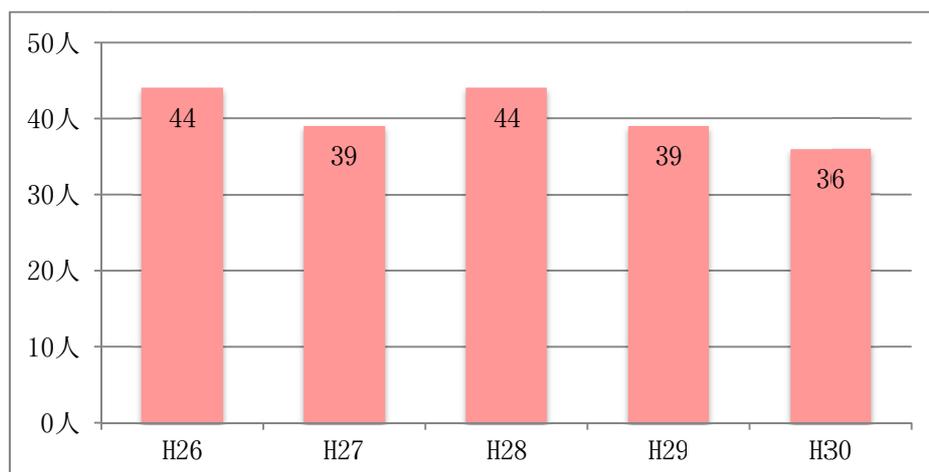
本町の合計特殊出生率（女性が一生の間に生むと考えられる子どもの数）は、以前として減少が続いているのに対し、青森県全体では平成20年から上昇傾向に転じています。



(人口動態統計)

(5) 出生数の推移

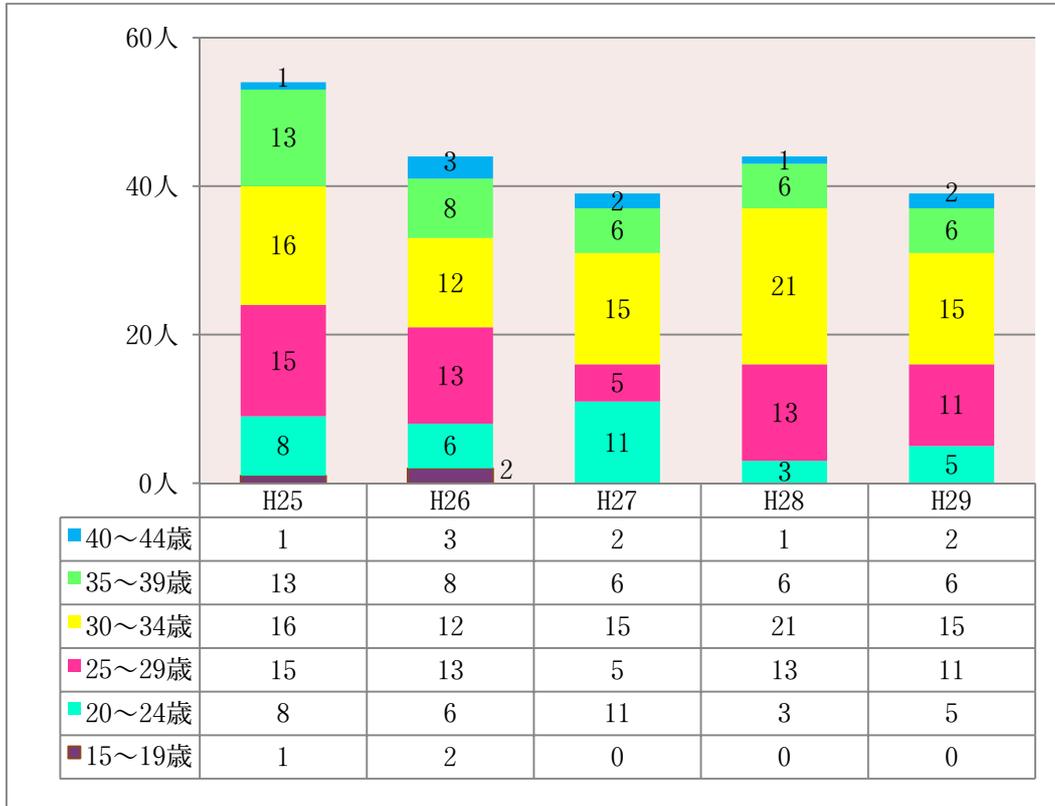
本町の出生数は、平成26年度は44人でしたが、平成30年度は36人(8人の減少)で、減少傾向となっています。



(H26年度～H29年度：人口動態統計 H30年度：三戸町住民基本台帳 H31.3.31現在)

(6) 母の年齢別出生数の推移

母の年齢別の出生数の推移をみると、平成25年度と比較し、40～44歳の出生数が1人増えているものの、他の階層区分では全て減少しています。



(人口動態統計)

2 子育て環境の現状

(1) 特定教育・保育施設、認可外保育施設設置数

本町には令和元年度（平成 31 年度）において、保育所が 2 か所、認定こども園が 2 か所、認可外保育施設（児童館）が 1 か所あります。

第 1 期三戸町子ども・子育て支援事業計画に基づく町立保育所の統廃合の実施、少子化の影響による施設の休園等もあり、町全体の施設数は 5 か所となっています。

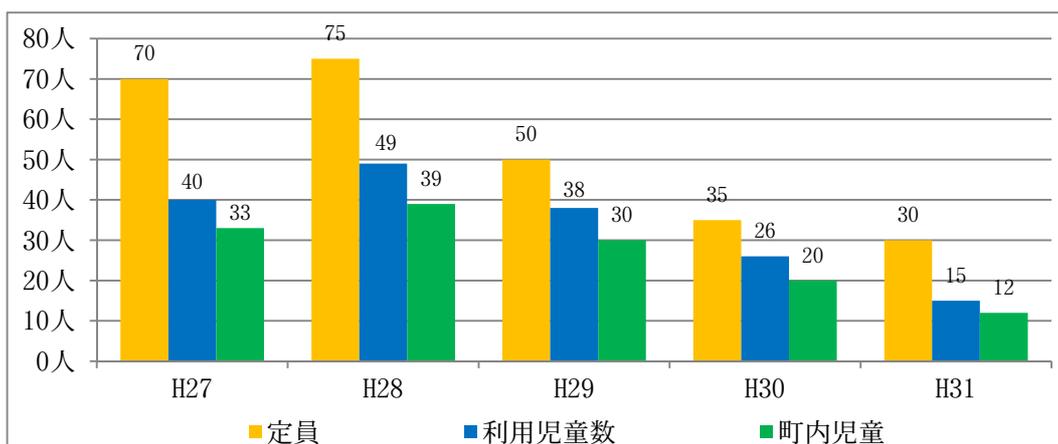
| 区分 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 幼稚園 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 |
| 保育所 | 4 | 3 | 2 | 2 | 2 |
| 認定こども園 | 0 | 1 | 2 | 2 | 2 |
| 認可外保育施設 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 |
| 計 | 8 | 8 | 7 | 7 | 5 |

(2) 幼稚園、認定こども園（幼稚園部分）の状況

① 定員数と利用者数

平成 29 年度には、2 か所あった幼稚園のうち 1 か所が認定こども園に移行し、残る 1 か所は平成 30 年度末をもって休園となりました。

平成 31 年 4 月 1 日現在の利用児童数は 12 人で、平成 27 年度以降の推移をみると 5 年間の減少傾向が顕著に出ています。



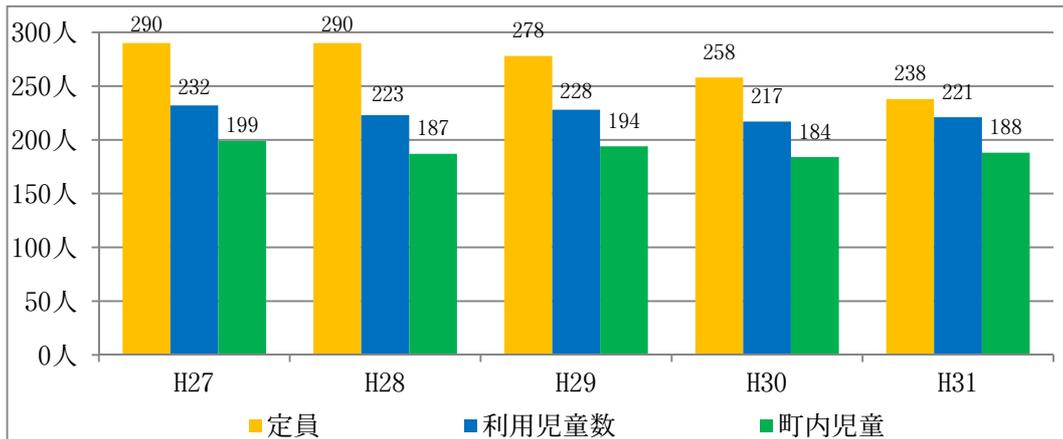
(各年 4 月 1 日現在)

(3) 保育所、認定こども園（保育所部分）の状況

①定員数と利用者数

平成 28 年度にミューズ保育園、平成 29 年度にいずみ幼稚園が認定こども園に移行しました。また、平成 28 年度末には町立久川保育所を閉所し、町立中央保育所に統合しました。町立中央保育所は令和元年度末に閉所します。

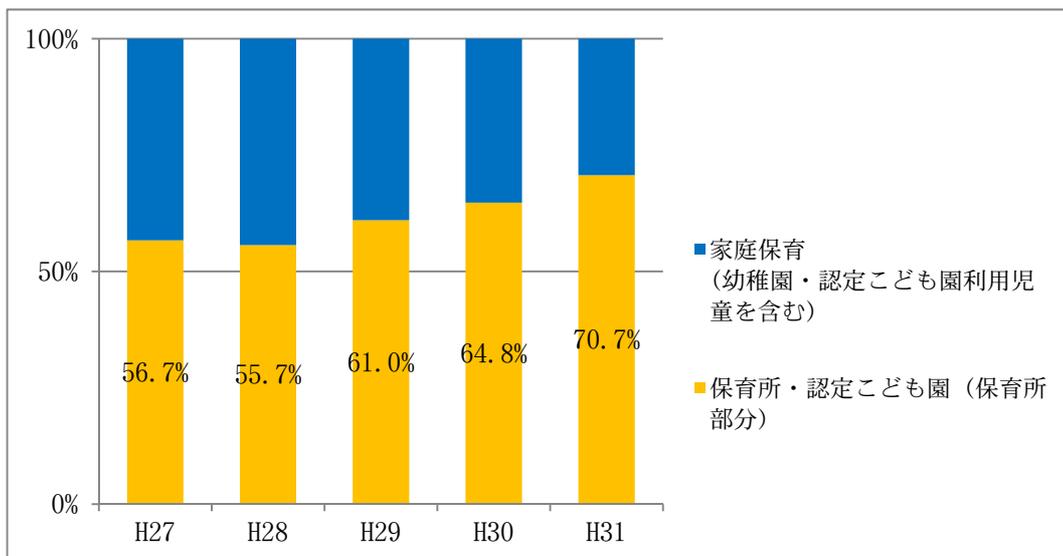
平成 31 年 4 月 1 日現在の町内利用児童数は 188 人で、平成 27 年度以降概ね横ばいの状態が続いています。



(各年 4 月 1 日現在)

②就学前児童数に対する保育所利用児童の割合

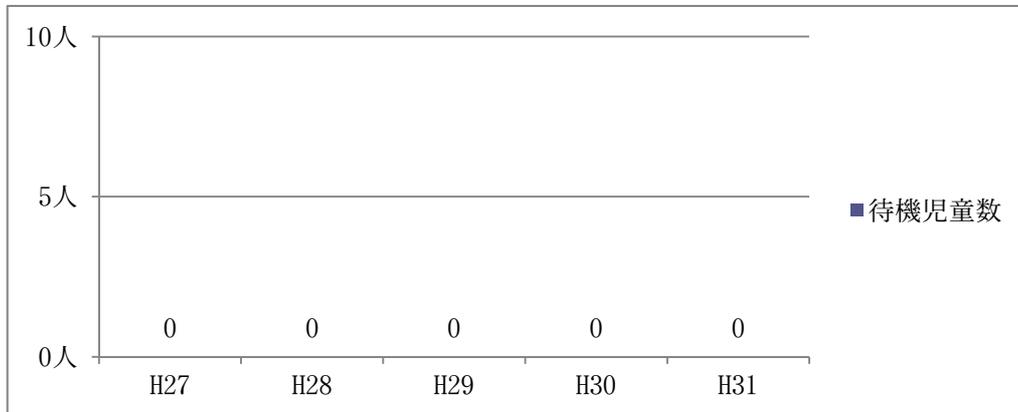
本町の就学前児童数に対する保育所・認定こども園（保育所部分）利用児童の割合は、平成 27 年度が 56.7%に対し、平成 31 年度では 70.7%となっております。少子化や核家族化の進展により共働きの家庭が増え、保育を必要とする家庭の割合は大きく増加しています。



(各年 4 月 1 日現在)

③保育所待機児童の状況

本町では待機児童は発生しておりません。

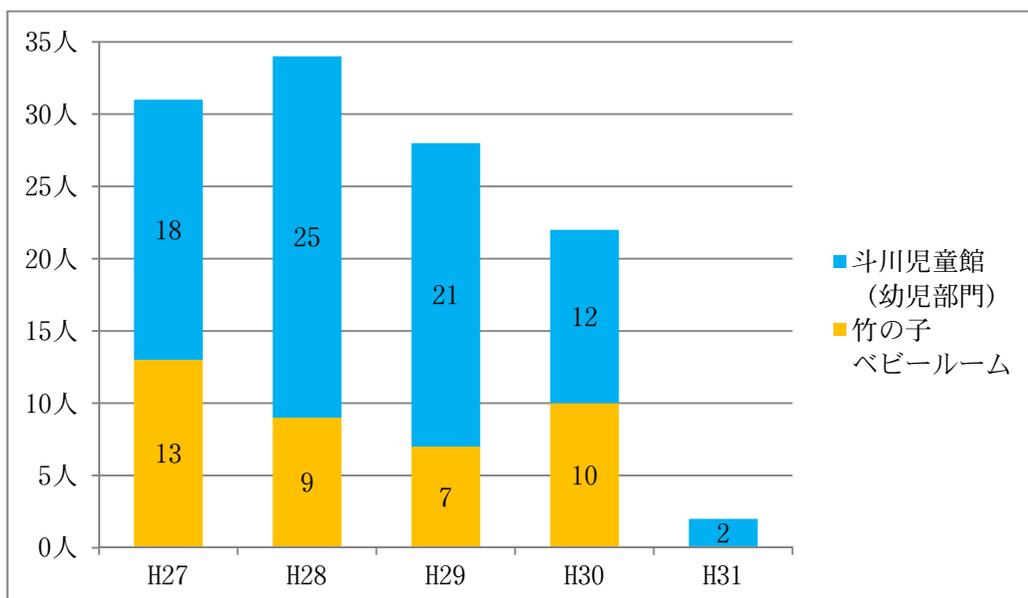


(各年4月1日現在)

(4)認可外保育施設の状況

本町の認可外保育施設は、平成30年度末をもって私立施設1園が休園となったため、令和元年度においては町立の斗川児童館（幼児部門）の1か所となりました。

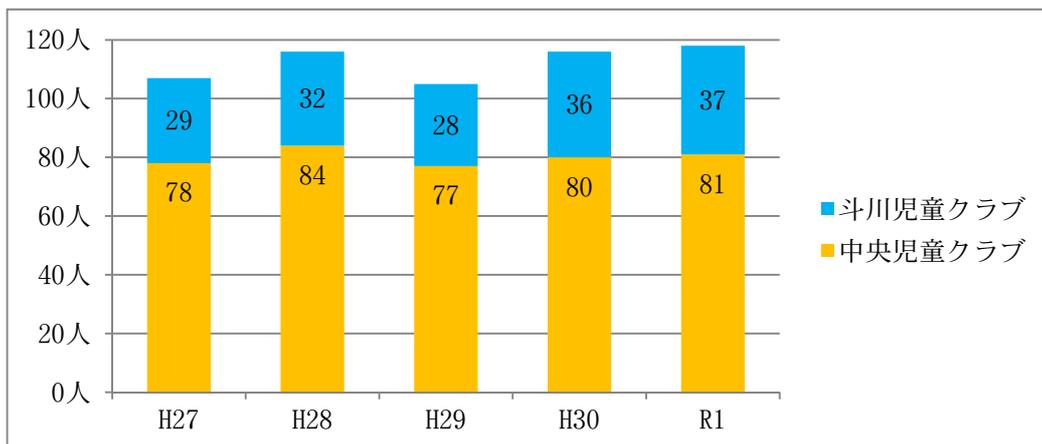
平成31年4月1日現在の利用児童数は2人で平成27年度以降大きく減少しています。



(各年4月1日現在)

(5) 放課後児童クラブの状況

本町の放課後児童クラブは、中央児童クラブと斗川児童クラブの2か所となっております。平成27年5月1日時点の登録児童数は107人でしたが、令和元年5月1日の登録児童数は118人となっており、児童数は減少しているものの登録児童数は増加傾向にあります。



(各年5月1日現在)

4 子ども・子育て支援ニーズ調査、子育て支援に関するアンケートの結果

(1) 子ども・子育て支援ニーズ調査の概要

①目的

「子ども・子育て支援事業計画」を策定するため、教育・保育や地域における様々な子ども・子育て支援サービスの現在の利用状況や今後の利用希望を把握し、その内容を事業計画に反映させることを目的に実施しました。

②実施期間

平成 30 年 11 月 19 日から平成 30 年 12 月 14 日まで

③調査対象者

- ・ 就学前児童及び小学生の子どもを持つ全ての保護者。
(兄弟児がいる世帯は、調査対象区分毎に、一世帯につき 1 件としました。)

④回収率

| 対 象 者 | 配布数 | 回答数 | 回答率 |
|-----------------|-------|-------|-------|
| 小学校就学前のお子さんの保護者 | 234 件 | 202 件 | 86.3% |
| 小学生のお子さんの保護者 | 368 件 | 332 件 | 90.2% |
| 合 計 | 602 件 | 534 件 | 88.7% |

(2) 子育て支援に関するアンケート（対象：施設職員）

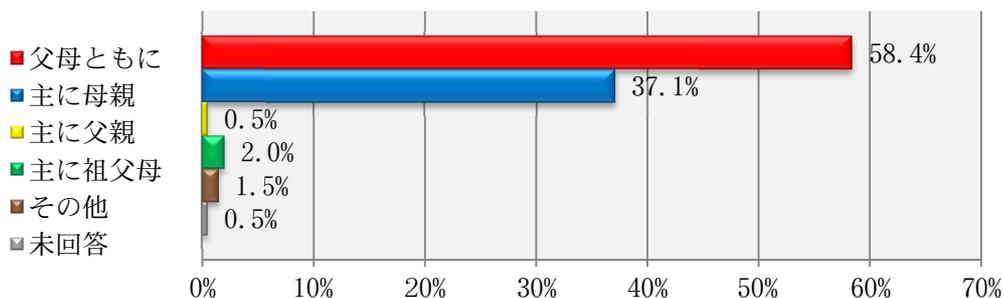
子どもやその保護者と身近に接する機会の多い職員（教育・保育施設）のご意見を伺い、事業計画に反映させることを目的に「子ども・子育て支援ニーズ調査」と併行し、実施しました。

(3) 子ども・子育て支援ニーズ調査結果

調査対象：小学校就学前のお子さんの保護者

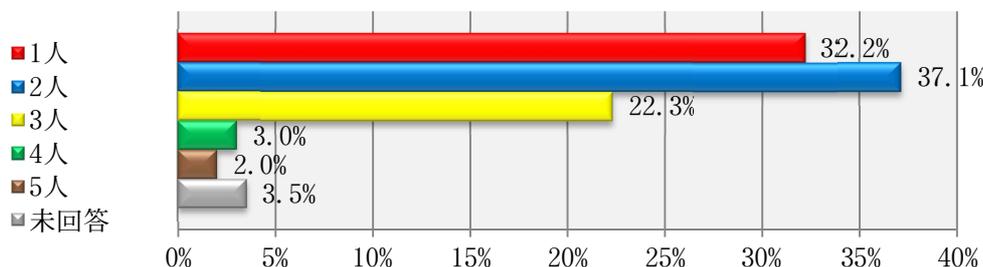
1) 子育てを主に行っている方

「父母ともに」が58.4%、「主に母親」が37.1%となっており、母親への子育ての負担の比重が多いことがみられます。



2) お子さんの兄弟の数

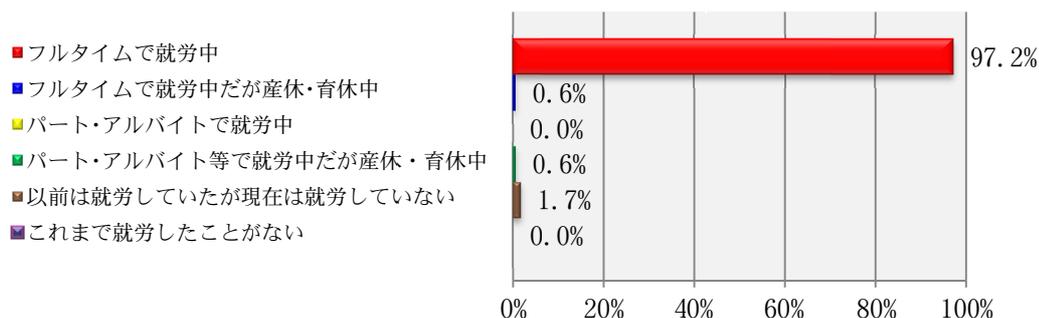
「2人」が37.1%で最も多く、「1人」が32.2%となっております。3人以上は27.3%で最も低い割合となっております。



3) 保護者の就労状況

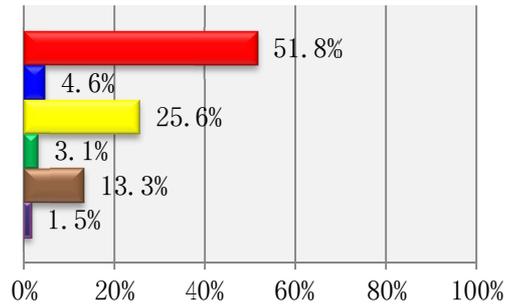
父親の就労状況が「フルタイムで就労」が97.2%と高い割合となっており、母親の就労状況は、「フルタイムで就労」が51.8%と最も高く、次に「パート・アルバイトで就労中」が25.6%となっております。

●父親



●母親

- フルタイムで就労中
- フルタイムで就労中だが産休・育休中
- パート・アルバイトで就労中
- パート・アルバイト等で就労中だが産休・育休中
- 以前は就労していたが現在は就労していない
- これまで就労したことがない



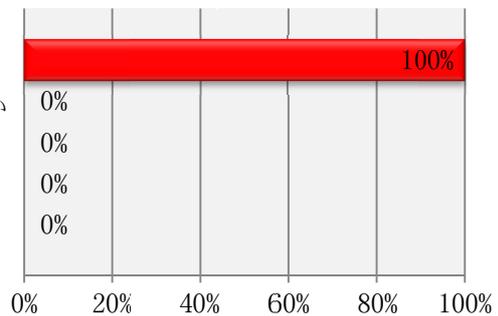
4) フルタイムへの転換希望

父親は、「フルタイムへの転換希望があり実現できる見込みがある」が100%となっております。

母親は、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が58.9%と半数以上を占めております。フルタイムへの転換希望は、全体で28.5%となっておりますが、そのうち「実現できる見込みがある」は7.1%で、希望していてもフルタイムへの転換は厳しい状況がみられます。

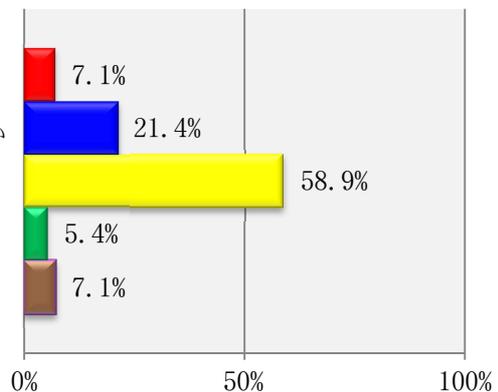
●父親

- フルタイムへの転換希望があり実現できる見込みがある
- フルタイムへの転換希望はあるが実現できる見込みはない
- パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- 就労をやめて子育てや家事に専念したい
- 未回答



●母親

- フルタイムへの転換希望があり実現できる見込みがある
- フルタイムへの転換希望はあるが実現できる見込みはない
- パート・アルバイト等の就労を続けることを希望
- 就労をやめて子育てや家事に専念したい
- 未回答



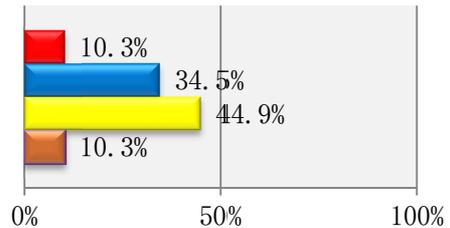
5) 就労していない保護者の就労意向

父親は、未回答のため把握することができませんでした。

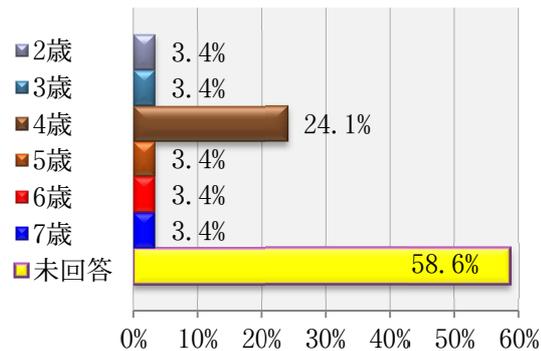
母親は、「1年より先、一番下の子どもが一定の年齢になった頃に就労したい」が44.8%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が34.5%となっており、約8割の方が就労を希望しています。また、就労予定がない方は前回より7.7%減少しており、今後も保育ニーズが高まることが予想されます。

●母親

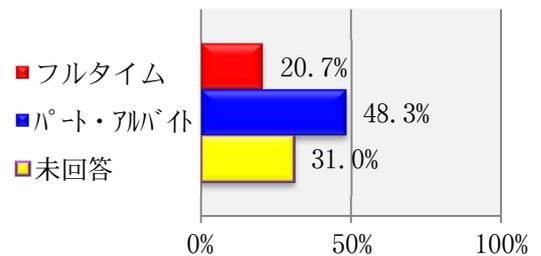
- 子育てや家事などに専念したい(就労予定なし)
- すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
- 1年より先、一番下の子どもが〇歳になった頃に就労したい



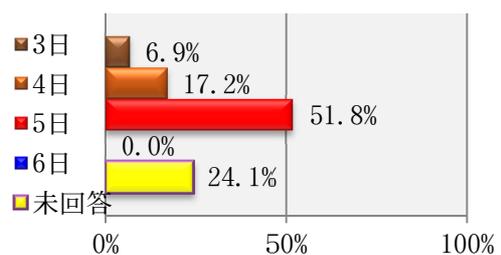
●一番下の子どもが何歳になった頃に就労したいか



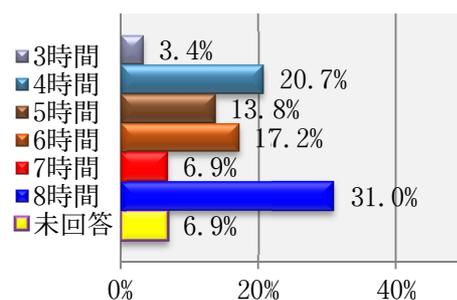
●希望する就労形態



●パートの希望日数・時間



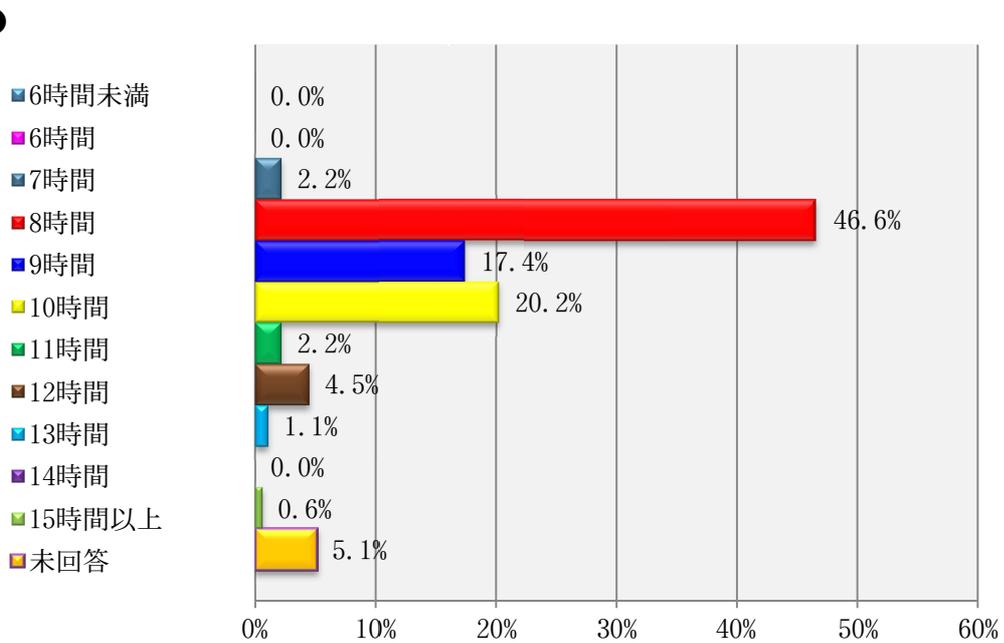
●希望時間



6) 就労している保護者の就労時間

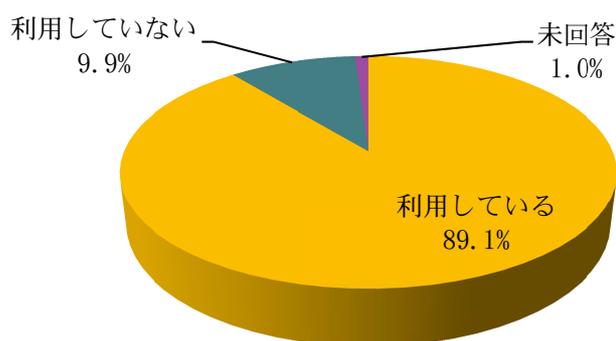
父親の1日あたりの就労時間は、「8時間以上」が全体の92.6%を占めており、長時間労働が多くみられることも、母親への子育ての負担が多くかかっている一つの理由として考えられます。

母親の1日あたりの就労時間は、「8時間」が最も多く51.2%となっておりますが、「7時間以下」が33.1%いることから、フルタイム労働が半数以上を占めながらも、パート勤務を選択している方も数多くいることがわかります。

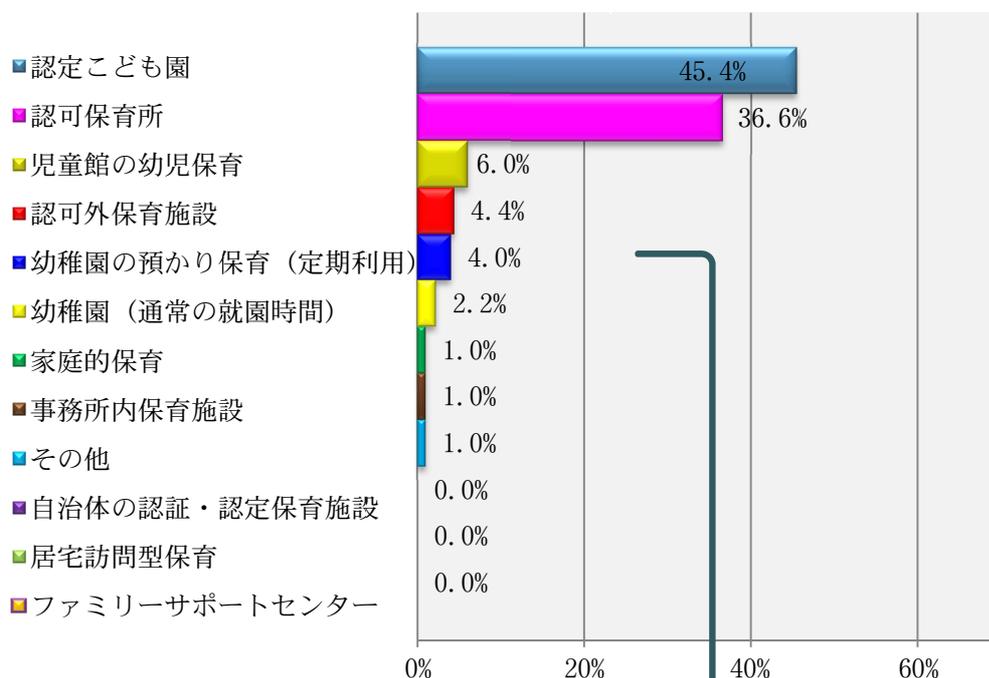


7) 教育・保育施設等の定期的な利用状況

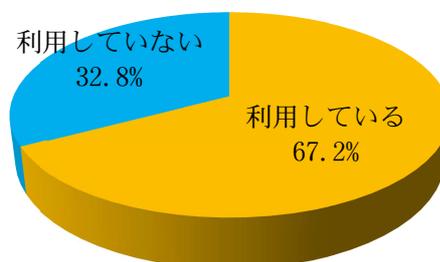
「利用している」が89.1%と高い割合になっており、利用している事業は、「認定こども園」が45.4%と最も高く、次に「認可保育所」が36.6%となっています。



●利用している事業



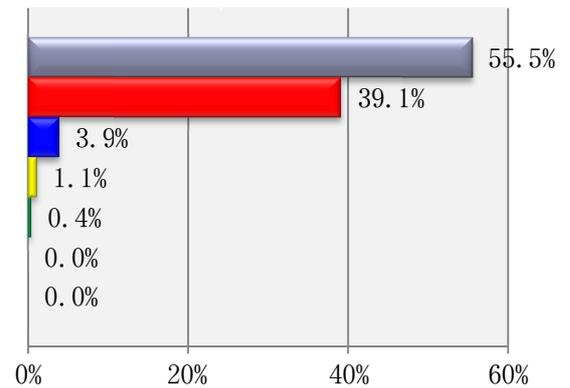
●幼稚園の預かり保育の定期的な利用



8) 教育・保育施設等を定期的に利用している理由

「子育てをしている方が、現在就労している」が55.5%、次に「子どもの教育や発達のため」が39.1%となっていることから、保育環境の充実とともに、お子さんの教育や発達を期待されていることがうかがわれます。

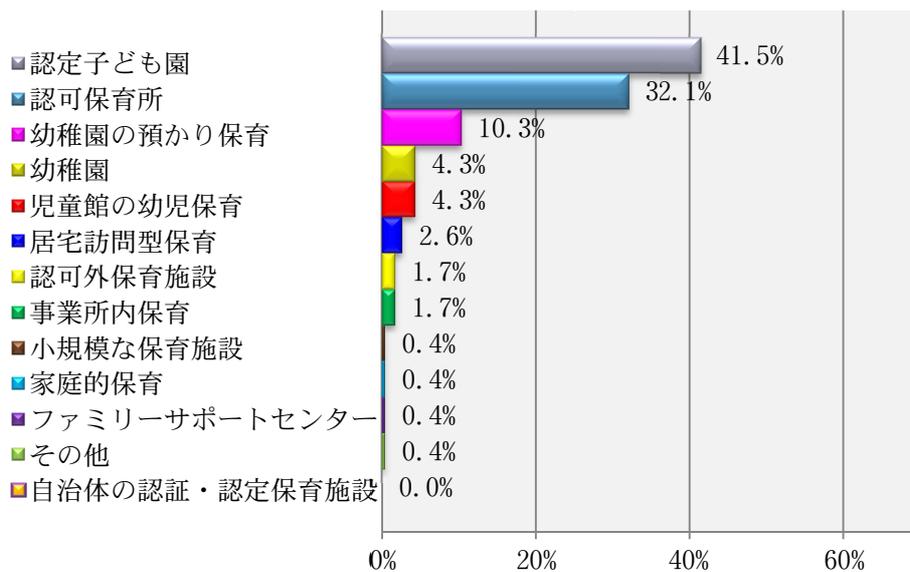
- 子育てをしている方が現在就労している
- 子どもの教育や発達のため
- 子育てをしている方が就労予定がある／求職中
- その他
- 子育てをしている方が病気や障害がある
- 子育てをしている方が家庭・家族などを介護している



9) 教育・保育施設等の今後の利用希望

「認定こども園」が41.5%、「認可保育所」が32.1%となっており、全体の7割以上を占めています。現在の利用割合と大きく変わらないものの、幼稚園の預かり保育は、現在の利用割合より高くなっており、潜在的なニーズがみられます。

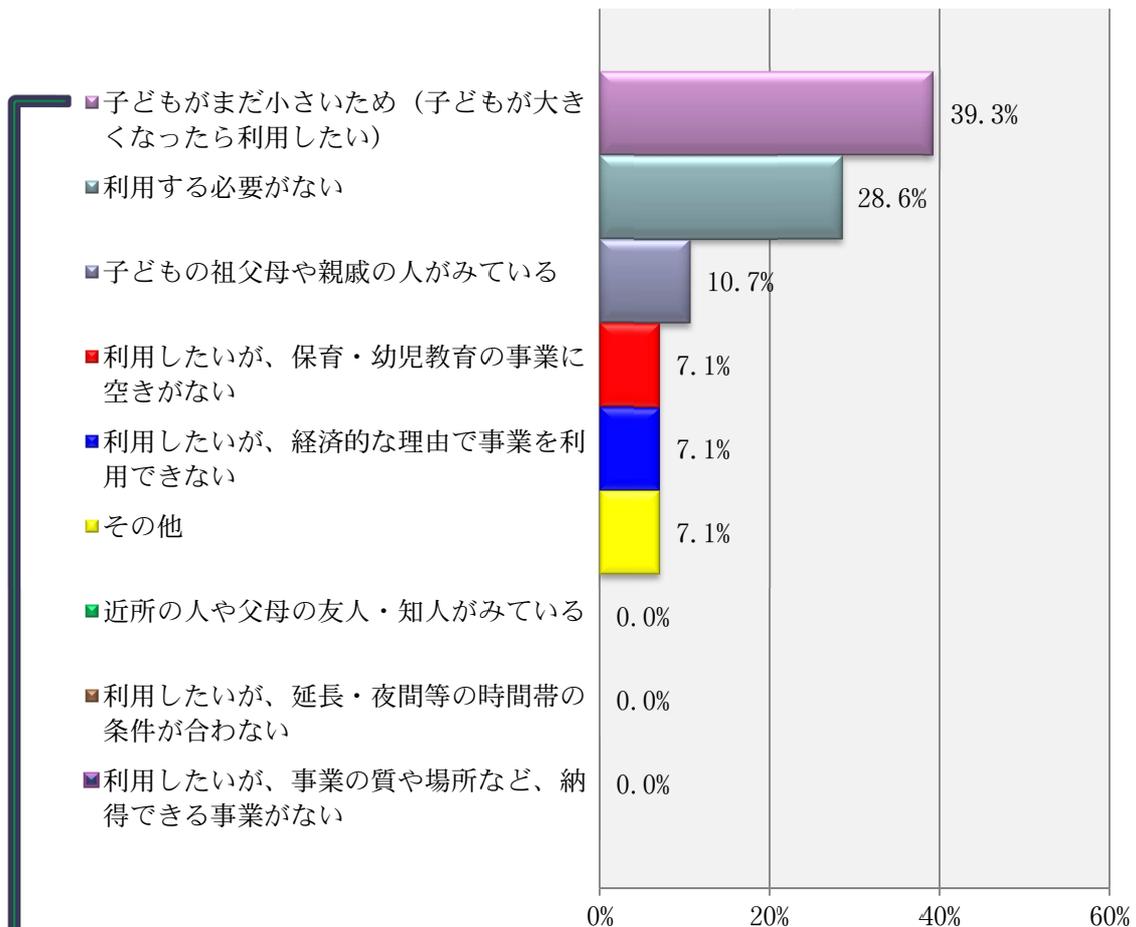
●利用したい事業



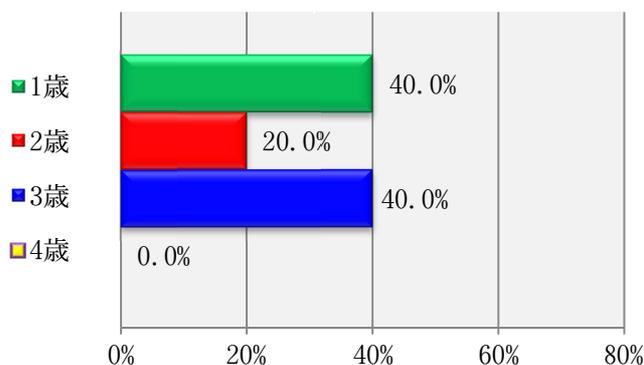
10) 教育・保育施設等を利用していない理由

「子どもがまだ小さいため（一定の年齢になったら利用したい）」が39.3%と最も高く、次に「利用する必要がない」が28.6%となっております。希望年齢別にみると1歳と3歳がともに40.0%となっております。

●利用していない理由

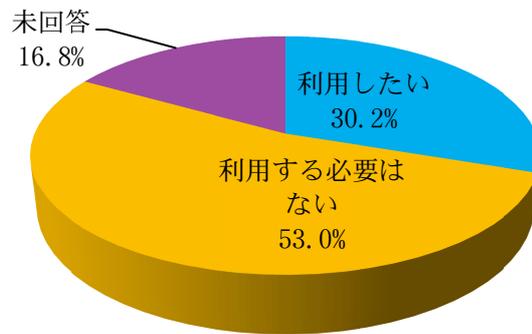


●利用しようと考えている子どもの年齢

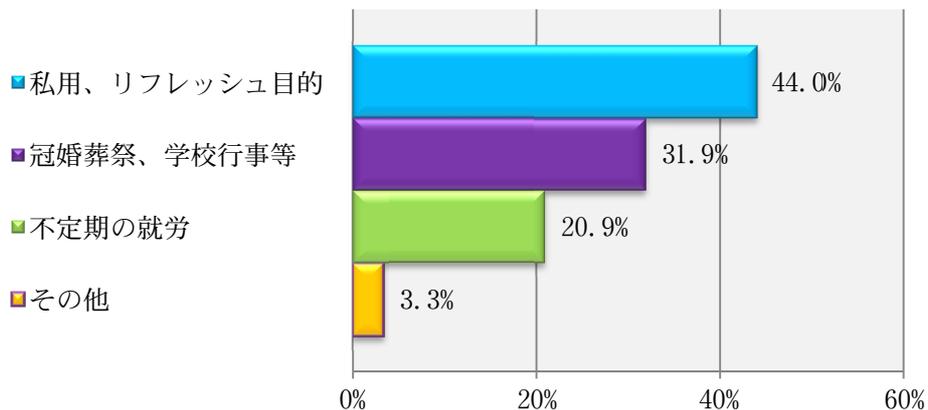


11) 保護者の病気や私用などで、不定期に利用したい事業

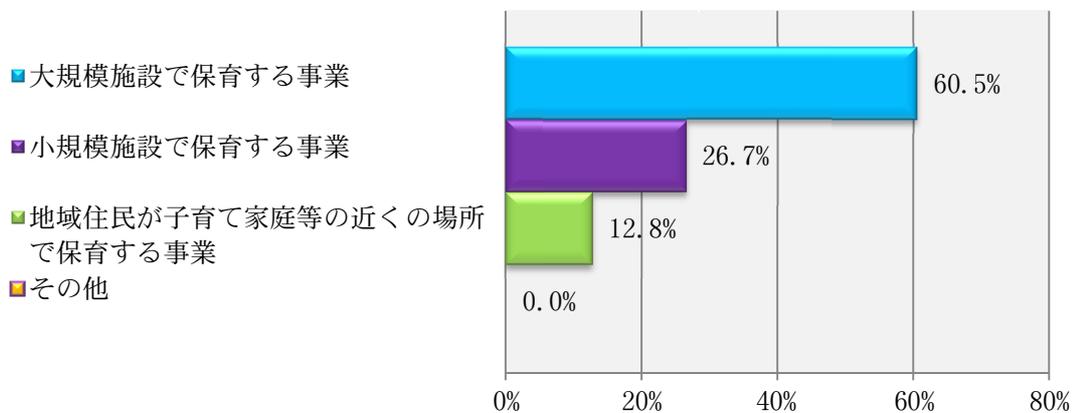
「利用する必要はない」が53.0%となっていますが、「利用したい」が30.2%であり、約3割の方が利用を希望しております。利用したい理由は、「私用、リフレッシュ目的」の割合が44.0%と最も高く、次に「冠婚葬祭、学校行事等」が31.9%、続いて「不定期の就労」が20.9%となっています。



●利用したい理由



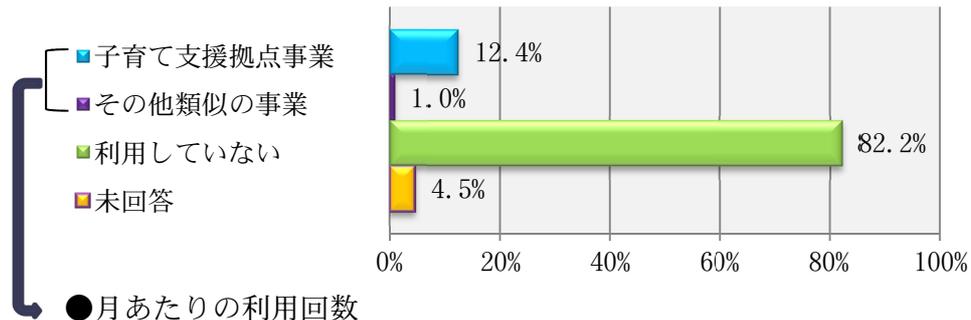
●望ましい事業形態



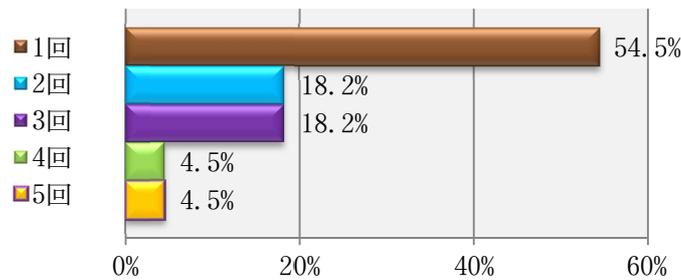
12) 地域子育て支援拠点事業の利用状況と今後の利用希望

現在の利用状況は、「子育て支援拠点事業」を利用していると「その他類似の事業」を合わせて13.4%となっております。今後の利用希望については、64.5%の方が「新たに利用したり、利用回数を増やしたいと思わない」と回答しており、より活用していただくための事業周知が課題となっております。

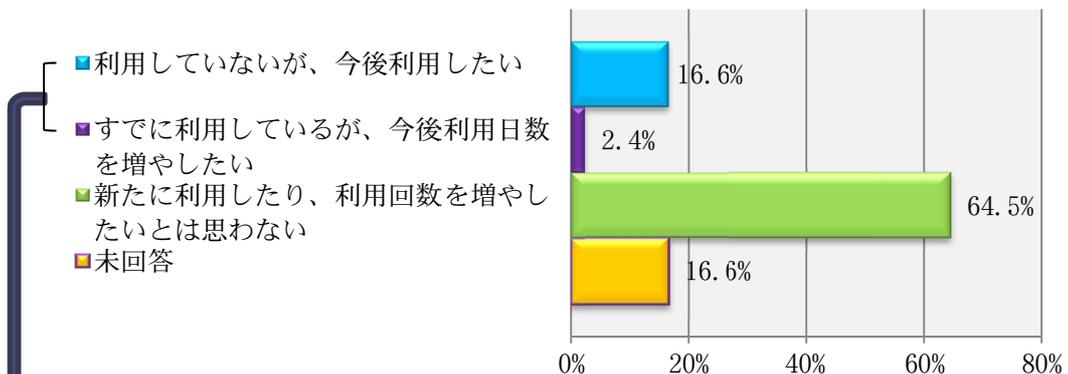
●現在の利用状況



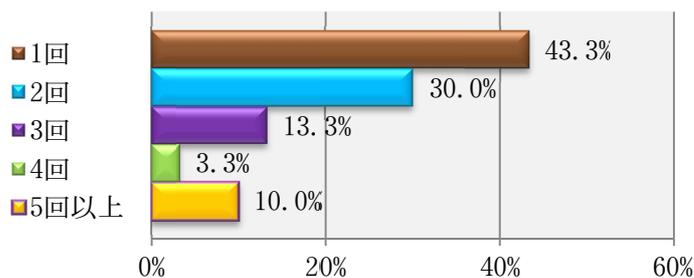
●月あたりの利用回数



●今後の利用希望



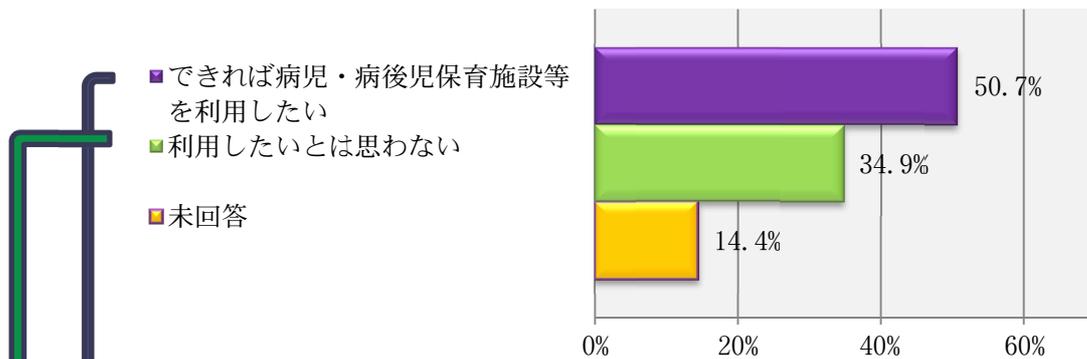
●月あたりの利用回数



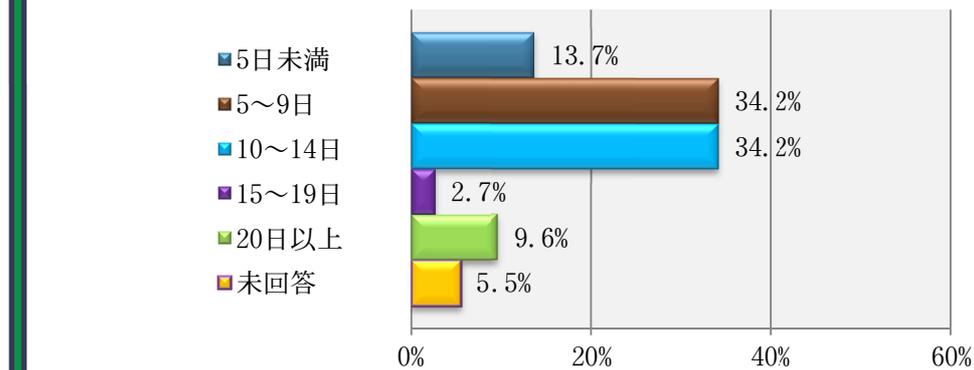
13) 病児・病後児保育の利用希望

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は50.7%で、前回調査よりも12.4ポイント高くなっております。「利用したいとは思わない」理由としては、「他人に看てもらうのは不安」が38.8%、「保護者が休んで対応する」が27.5%と高くなっております。

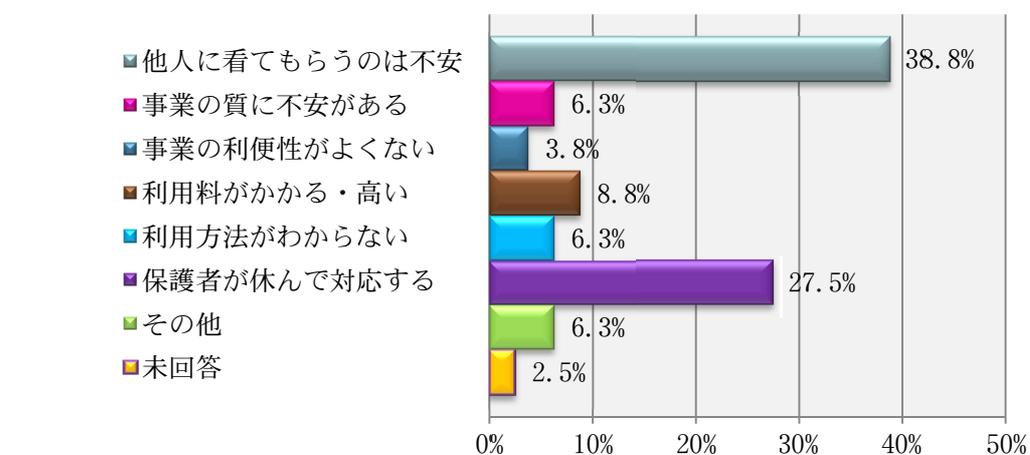
●利用希望



●利用希望日数



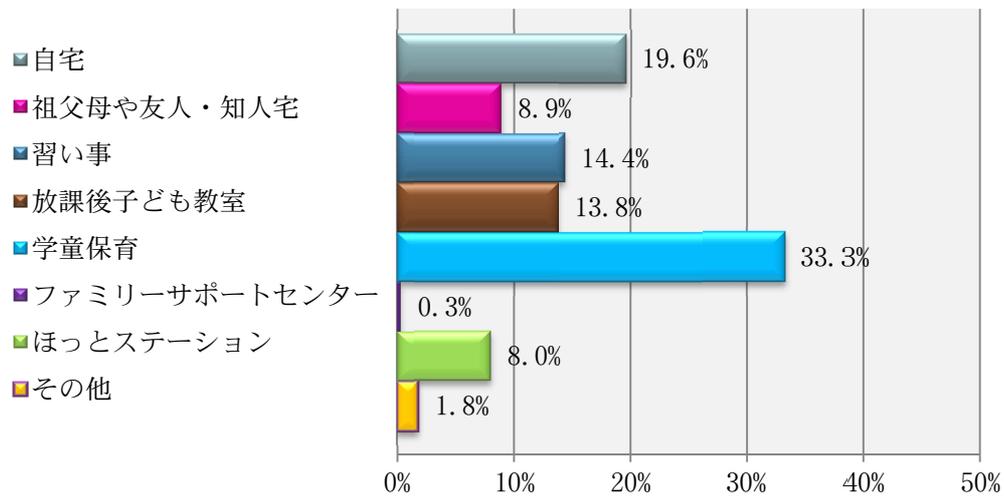
●利用したいとは思わない理由



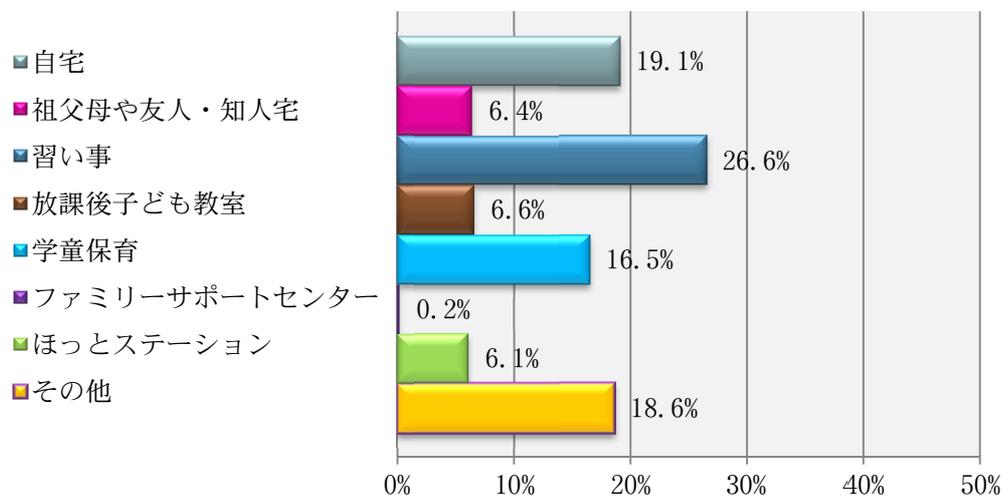
14) 小学校に就学した際に希望する放課後に過ごさせたい場所

低学年では「学童保育」が33.3%で割合が最も高く、次に「自宅」の19.6%となっております。また、高学年では「習い事」が26.6%と最も高くなっておりますが、「学童保育」も16.5%と一定の割合があり、潜在的な保育ニーズがみられます。

●低学年（1～3年生）



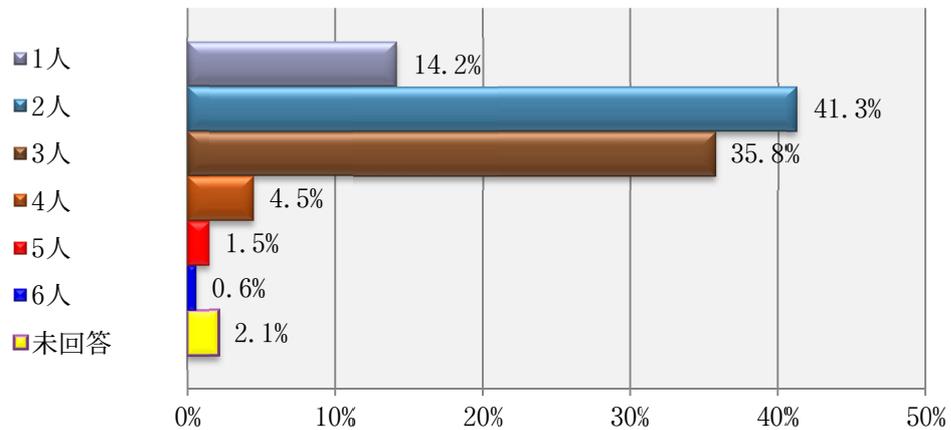
●高学年（4～6年生）



調査対象：小学生の保護者

1) 子どもの兄弟の数

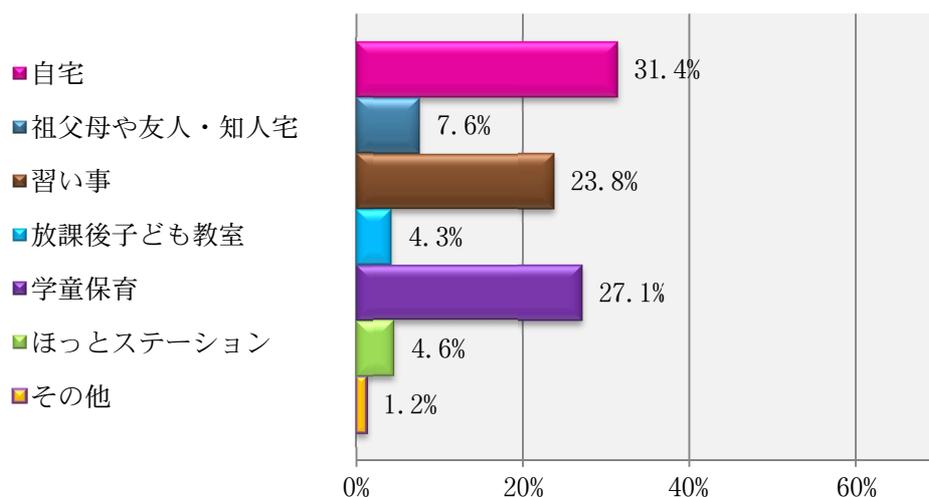
子ども「3人以上」の世帯は42.4%となっており、「2人」の41.3%とほぼ同数程度となっておりです。



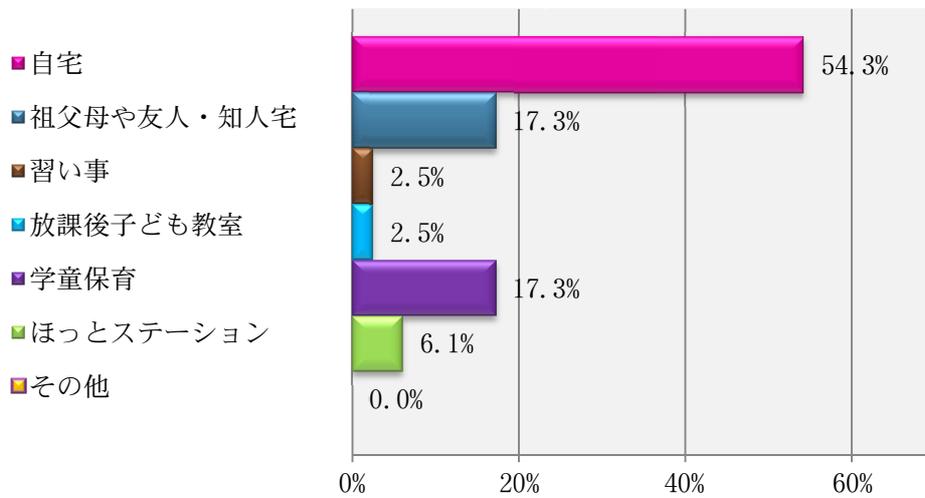
2) 低学年が放課後過ごしている場所、今後、高学年（4～6年生）になった時に過ごさせたい場所

低学年が放課後過ごしている場所は「自宅」が31.4%、今後過ごさせたい場所は「自宅」が54.3%と最も高い割合となっております。一方、「学童保育」「放課後子ども教室」「ほっとステーション」の割合も一定程度あり、放課後の居場所づくりが求められています。

● 過ごしている場所



●高学年になった時に過ごさせたい場所

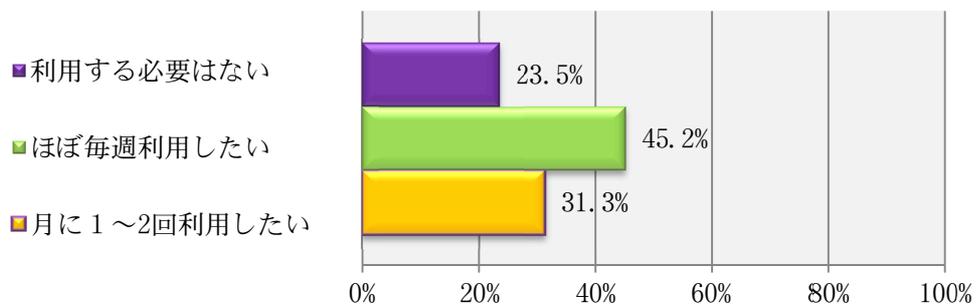


3) 土曜日、日曜日・祝日、長期休暇期間中の学童保育の利用希望（低学年）

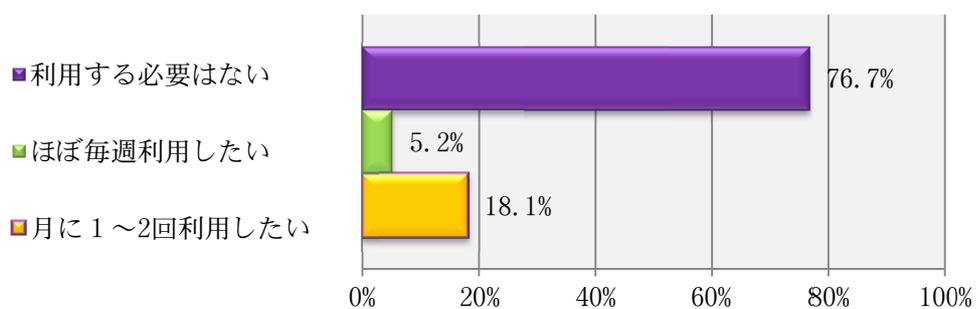
土曜日では「ほぼ毎週利用したい」が45.2%と最も高いのに対し、日曜日・祝日では76.7%が「利用する必要はない」と回答されており、日曜・祝日のニーズは高くありません。

また、長期休暇期間中は、「ほぼ毎週利用したい」が73.4%となっており、ニーズの高さがみられます。

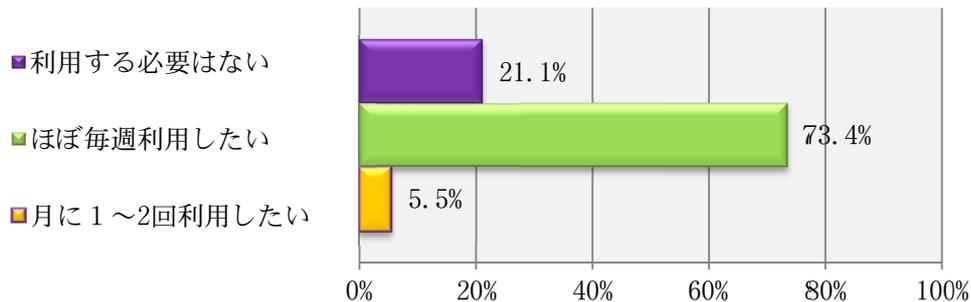
●土曜日の利用希望



●日曜日・祝日の利用希望



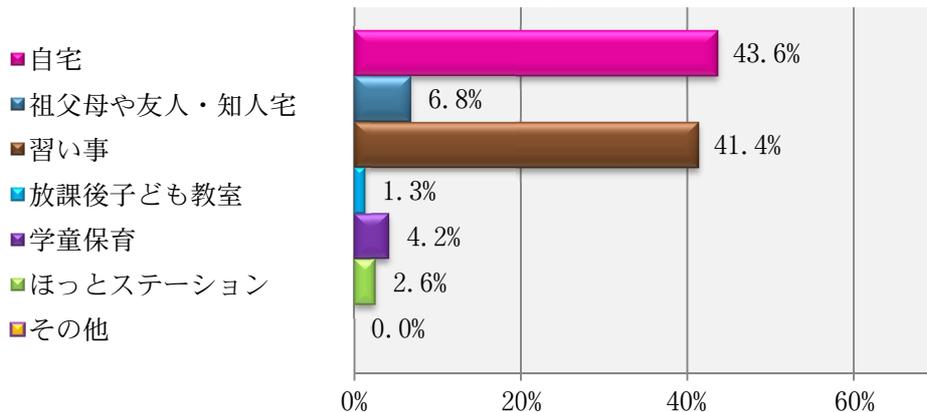
●長期休暇期間中（夏休み・冬休みなど）の利用希望



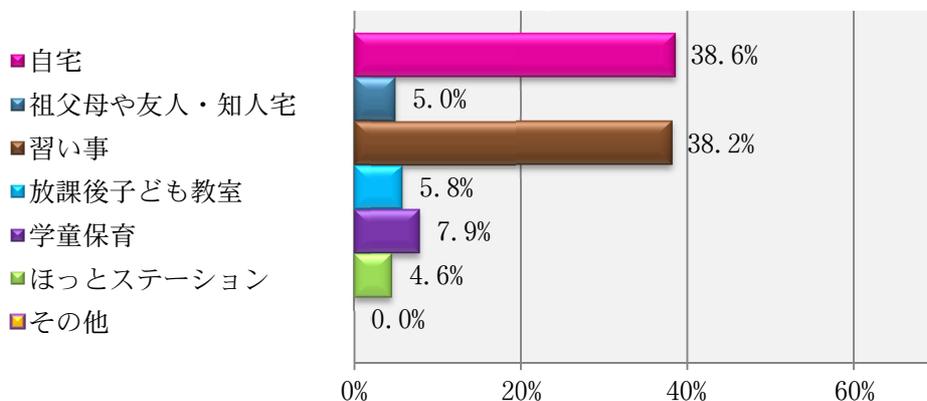
4) 高学年が放課後過ごしている場所、過ごさせたい場所

高学年が放課後過ごしている場所、過ごさせたい場所は「自宅」や「習い事」の割合が高くなっていますが、今後、学童保育や放課後子ども教室、ほっとステーション等で過ごさせたいという意向もあることから、放課後の居場所づくりの整備が必要です。

●高学年が放課後過ごしている場所



●今後過ごさせたい場所

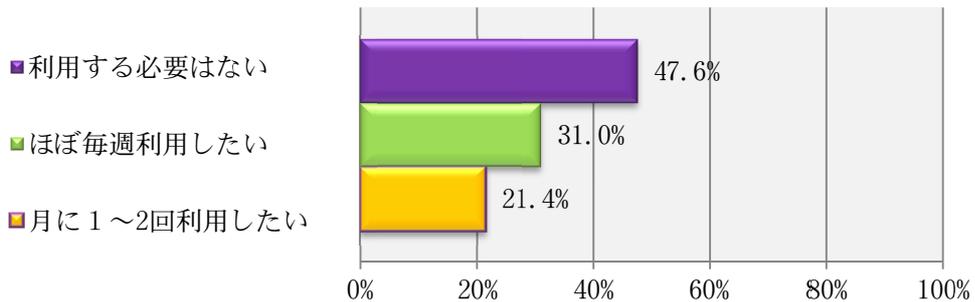


5) 土曜日、日曜日・祝日、長期休暇期間中の学童保育の利用希望（高学年）

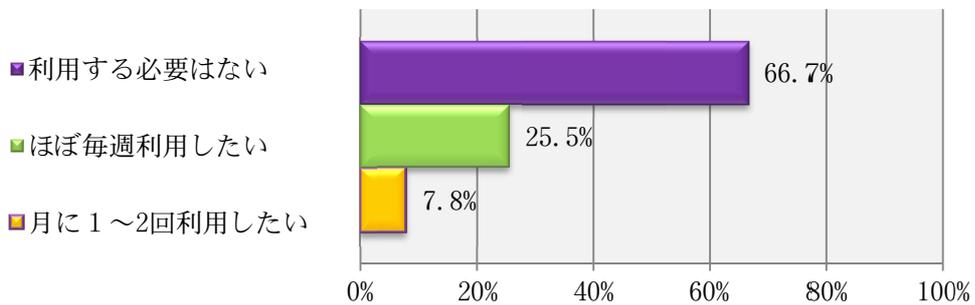
土曜日では「利用する必要はない」が47.6%を占めておりますが、「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回利用したい」の合計が半数を超え、土曜日のニーズが高くなっております。一方、日曜日・祝日では66.7%が「利用する必要はない」と回答しており、日曜・祝日のニーズは高くありません。

また、長期休暇期間中は、「ほぼ毎週利用したい」「月に1～2回利用したい」の合計が64.3%となっており、ニーズの高さがみられます。

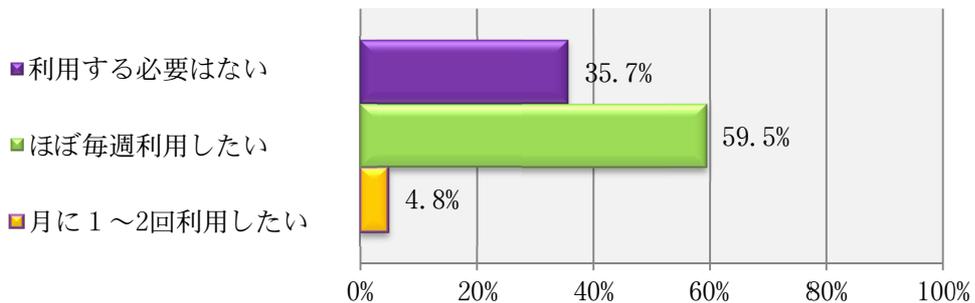
●土曜日の利用希望



●日曜日・祝日の利用希望



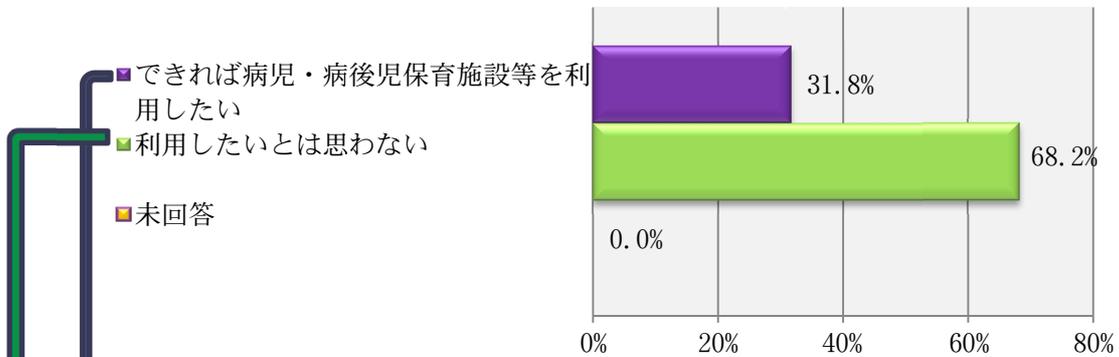
●長期休暇期間中（夏休み・冬休みなど）の利用希望



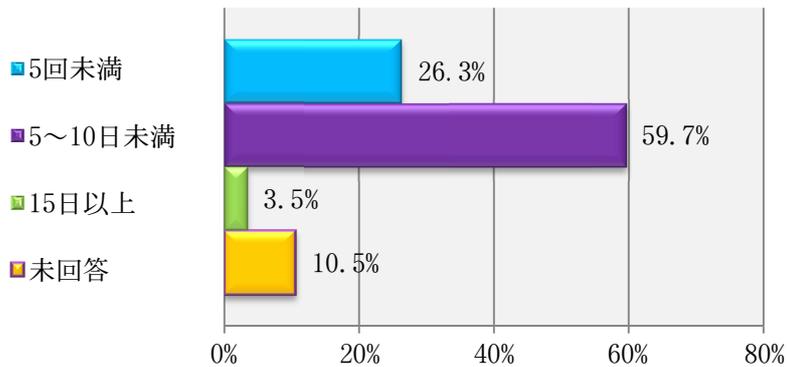
6) 病児・病後児保育の利用希望（小学生）

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は31.8%あるものの、割合としては、「利用したいとは思わない」が68.2%と、最も高くなっております。

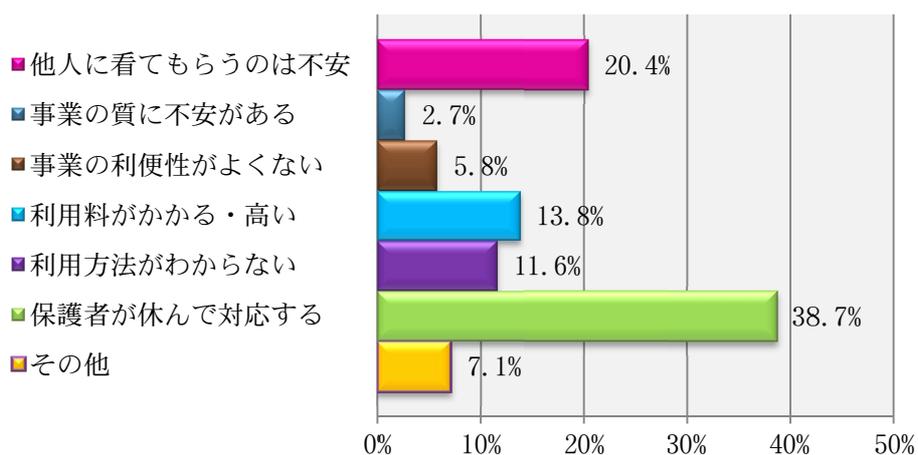
●利用希望



●利用希望日数



●利用したいとは思わない理由



自由意見

1) 子育てをする上で、今までに困ったこと。周囲からのサポートの要望

| 区分 | 主なご意見 |
|-----------|--|
| 育児一般 | 子どもが熱を出したり、体調不良になったりした時に見てくれる人がいないので、仕事を休むことになる。 |
| | 片親で、休日どう過ごすか悩むことが多く、そういうときにサポートしてくれる団体や、子育て世代が集まれる何かがあれば助かると思います。 |
| | 祖父母と子育てに関して意見が合わない時がある。 |
| 一時預かり | 用事がある時、少しの間、子どもをみてもらえる場所があればいいと思う。 |
| | 一時預かりをお願いして、子どもが慣れてきた頃に止めると言われました。もっと町で力を入れてほしいです。 |
| 延長保育 | 冬、道路状況が悪いため、7時やそれ前に家を出なければならないが、対応できる施設が認可外しかないため悩んでいる。 |
| 休日保育 | 日曜日や祝日に子どもをみてくれる施設。 |
| | 日曜日、祝日の託児施設（数時間でも）。 |
| 病児・病後児保育 | 子どもが熱を出し保育園を休むことが多く仕事を休んでばかりで、三戸にも病児保育ができる施設があればいいなと思っています。 |
| | 病み上がりの子どもをもう一日、家で休ませたいが、仕事を休めないで、結局は保育施設に預けている。病後児保育の普及を強く望みます。 |
| | 病児保育がないため、自分で知人に頼まなければならない、不便だと感じた。 |
| | 体調が悪いとき、受診できる小児科がなかった。天気の悪い時でも遊べる施設があればいいと思います。 |
| 学童保育等 | 児童館の始まる時間が夏休み、冬休みなど、8時からで、8時前には会社に出勤しなくては行けなかったので大変でした。 |
| | 児童館には入れる学年を1年から3年までではなく、4年生までにしてほしいと思いました。今は部活も学校でやっているわけではないので、4年生を放課後1人で留守番させるのは不安な家庭もあると思います。 |
| | 下校後の子どもが帰宅以外に入れる場所がなくて困っている。両親共働きで、帰宅しても傍でみていることもできず、1人で留守番という形が当たり前。そういう施設があっても時間が17時や18時までとかで、仕事がそれまで終わらないことが多いので困っている。学童保育等をやっている園はお金が高いので預けられない。 |
| 幼児教育・保育施設 | いざというときに（祝日など）気軽に預けられるような託児所があればありがたいです。※職場が祝日関係ないため |

| | |
|------|---|
| 遊び場 | 2～6歳の子が利用できるような遊具が町内に2、3ヵ所あると休日など遠くへ遊びに行かなくても町内で過ごせる。また、室内でも1時間程度遊べるようなアスレチック、滑り台、三輪車等を備えた施設があると助かる。 |
| | 近くに遊ぶところがない。公園を造ってほしい。 |
| 医療機関 | 近くに常勤の小児科がなく困る。近くでもその決められた曜日の午前中のみなので、仕事を1日休まなければならない、お金の面で少し不安。 |
| | 小児科を毎日やってほしい。 |
| | 病院がない。歯科の予約が取りにくい。 |
| 行政 | 〇ヵ月健診があるのは知っているが、はっきりとした日にちが分からず（私の家には広報誌などの配付がないので）、知らないまま過ぎてしまっただけで困るとハラハラした思いがありました。表のようにして配ったり、郵送したりしてくれるといいなと思います。 |
| | 出産したときに、オムツ、ミルク缶等のお祝いものをいただければ助かります。 |
| | インフルエンザの予防接種の負担が大きいため助成してほしい。 |
| 職場環境 | 子育てへの理解をしてくれる会社がない。 |
| | 子どもが熱等で休む場合（数日）、仕事が休みづらい。職場は子育てしやすい環境になるよう取り組んでいるようだが、実際に一緒に働く人の中には、子育てに関しての理解がない人もいるため。 |
| 生活環境 | 通学路にガードレールをつけてほしい。 |
| | 子どもの通学路（特に冬、雪が積もったところ）が狭く、除雪もしないので、車道を歩かなければならないときに危険で困る。 |

2) 子育ての環境や支援に関してのご意見

| 区 分 | 主なご意見 |
|-----------|--|
| 子育て支援 | 子育てサポート祝金（3人目以降）は条件が厳しいと思った。わかりにくい。1人目、2人目にもサポートがほしい。 |
| | 以前（数年前）に比べると、少しずつ子育て世代への支援、制度、助成等は良くなっていると感じるが、医療機関が充実しておらず、不便を感じる。公園等はあるものの、遊具がある公園、またはあるものの整備状況が良くない公園が多く感じる。 |
| | 三戸町は医療費助成など経済的支援等が多く、保護者にとっては大変ありがたく感じている。また、子ども向けのイベントも開催され、楽しませていただいているが、欲を言えば、回数が多くなれば嬉しい。年少～年長児間の子育て支援施設などがあると助かるかと思います。 |
| | お盆、年末年始（できれば日曜日、祝日）も保育所、幼稚園をやってほしい。幼児食のあるお店。 |
| | 個々の家庭の事情にかかわらず、子どもを育てていくのにかかる資金が援助されたら、子育てをする者の負担が減り、余裕をもって子どもを育てていくことができるのではないかと思います。子育て環境が良くなれば、学校でのイジメが減るように思います。 |
| | 学校の給食費の免除や兄弟がいたら半額にするとかしてくれると助かります。 |
| | 学校の先生のことを相談する場がない。自分の子どものことを考えると先生に不信感がある場合、学校には相談できない。できれば教育委員会などに相談できる工夫があれば良かった。 |
| 休日保育 | 日曜、祝日の保育、年末年始等の長期の休みの保育が充実してほしいです。部活動等も夜になるとなかなか難しいです。 |
| 学童保育等 | 児童館は3年生までしか利用できないのが不思議です。他県では6年生まで預けられる児童館があります。私は祖父母がいるので預けられますが、そうでない方は不便に感じているのではないのでしょうか。 |
| | ほっとステーションの開所する時間を19時くらいまで延ばしてもらいたい。（お金が発生してもいいので） |
| 病児・病後児保育 | 一時預かり保育や病児、病後児保育が必要と思う。 |
| | 仕事を休めない時に子どもの体調が悪くなったら気軽に預けられる病児保育や病後児保育などがあればいいと思います。 |
| 幼児教育・保育施設 | 幼児教育1号認定を希望している人のための情報が少ない。 |
| | 小、中、児童館とても良くしていただいています。公務員の働き方改革は進んでいるように見えますが、保育士さんへの対応はあまり良くないと思います。小さい子どもたちをよく見てくれていると思います。保育士さんの働く環境が良くなるといいなと思います。 |

| | |
|------|--|
| 遊び場 | 公園が少なすぎる。 |
| | 室内外の遊べる施設を充実させて欲しい。(正直のぼたん広場だとすぐ飽きてしまう。レジャー施設やアウトドア風の好奇心が持てる施設がほしい。) |
| | 公園遊具の修繕(安心して遊べるようにして欲しい) |
| | 休日の日中に、屋内でスポーツができる場所が欲しい。(ドッジボール、バスケ、卓球、バドミントン等) アップルドームや公民館は行事等が入っていることが多くて利用しづらい。 |
| | 子どもだけで自由に遊べたり、勉強ができたりする施設の充実。 |
| | 小学生以上の子が過ごせるところをもう少し作ってほしいです。体育館のような施設がもう少しあれば、運動する機会が増えると思います。 |
| | 遊具やアスレチックなどが充実したレジャー施設が、売店や飲食店と隣接したような場所が無いので、休日は町外へ出かけることが多いです、町内にそういった場所があると助かります。 |
| | 城山公園に遊具が増えたことはとてもいいと思います。関根ふれあい公園にも増やして欲しいです。 |
| | 金洗沢公園の遊具がボロボロで、子どもと遊んだときにトゲが刺さったので綺麗にして欲しい。全体的に公園を綺麗にして欲しい。 |
| 医療機関 | 子どもの急病に対応できるように、小児科の常勤医がいるようにしてほしい。 |
| | 午後もやってる病院があると仕事しながら通院しやすい。 |
| | 平日毎日夕方まで診てもらえる小児科の病院と、日曜、祝日、夜間も診てもらえる小児科の病院と、それぞれ作ってほしい。 |
| | 医療期間の曜日が限られており、受診したくても他の病院を探して受診しに行っている。体調不良の子を連れて遠い病院へ行かなければならず、とても不便です。 |
| | 小児科の利用時間を延ばして欲しい。仕事終わりに行きたい。土曜もやって欲しい。 |
| 行政 | 他の市や町では、フッ素やインフル接種の助成を行っている。三戸町でも実施してもらえると、とても助かると思います。 |
| | 町の乳児検診の幅が大きい。もう少し幅を狭くしてやって欲しい。 |
| | 子ども1人目、2人目からの助成をもう少し手厚くして欲しい。 |
| | 感染症(インフルエンザやノロなど)の情報がホームページなどで分かるとう助かる。 |
| | 健診の開始時間をもう少し遅くし、働く親は午前中だけでも働けるようにしてほしいです。 |
| 遊び場 | 屋内・屋外ともに、気軽に遊べる空間がもっと充実していれば良いなと感じる。公園やキャンプ場など。冬などに走り回っても安全に遊べる広い屋内施設。 |

| | |
|-------|--|
| 医療費助成 | 任意で受けるインフルエンザ予防接種の料金が高く家計の負担が大きいため、高齢者支援サービスと同様のようなサービスを検討してほしい。 |
| | 医療費の助成について、二戸病院の紹介外手数料2,100円も助成の対象にしてもらいたい。 |
| | 通院、入院とも18歳まで無料にしていただけると助かります。 |
| | 出産の一時金(42万円)だけでは、二戸病院の出産費用を下回ってしまうので、出産の足りないところだけでも助成してもらえると助かる。 |
| | 医療費無償はありがたいが、元気なため病院にかからず不公平だと思う。 |
| | インフルエンザの予防接種を学校でやってもらうと助かります。(病院と仕事の時間が合わなくて、毎年何とか間に合わせています) |
| | 以前に比べ、子育てしやすい環境になってきました。定期的に通院しなければならぬうちの子は、医療費無料は本当に助かっています。1回の通院で高速代、ガソリン代など、結構な金額がかかるので、未成年のうちは医療費無料であってほしいです。 |
| | 他の町村では、インフルの予防接種の助成や歯医者でのフッ素の助成を行っているので、三戸町でも実施していただけると、とても助かります。 |
| 料金 | 保育料が少し高い。 |
| | 保育料無償化はうれしいが、財源が気になります。住民税等、値上がりすると意味ない気がします。 |
| | 収入で保育料を一気に上げるのはやめてほしい。 |
| 生活環境 | 職場が少なく、時間が子育てと合わない。 |
| | 役場から小中学校への歩道の整備、街灯をもっと充実させてほしい。学校側だけでなく老人センター側もお願いしたい。高学年、中学生は帰宅時間も遅くなるが、道が暗いと感じられます。送迎車も多く、交通量も増え徒歩で帰る子も結構いるので、安全な環境にしてほしいです。 |
| | 放課後の過ごし方の1つとして、部活動(スポ少)をしているが、親の見守り係等で仕事を休むか早退しなければならず、負担に思うことが多い。また、試合も個人で行かなければならず、大変に感じる。 |
| | 三戸町中心街は歩道が狭く、路上駐車も多いため、危険だと思っています。駐車場が不足というのも原因なのかもしれないですね。 |
| | 親が休みに子どもの部活に振り回されて休養できない。文化部も増やしてほしい。コンピューターとか囲碁とか。 |

(4)子育て支援アンケート調査結果（対象：施設職員）

| 問1 | 子育てをしていく上で、保護者の皆さんが苦勞されていることは何ですか。 |
|---|------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">・子どものしつけ（生活習慣、生活の自立）。・子どもの食生活（好き嫌い）、アレルギー等。・自分のお子さんと一緒に生活することが苦手。関わり方が分からない。・子どもの自立に向け、どのように関わりを持てば良いか悩み、つついわがままを受け入れてしまうところではないかと思われる。・夜の寝付きが悪い。・朝起きられない子や行動を渋る子に対してどうしたらいいのか（規律性調節障害等も含め）。・子どもが自分を見て欲しかったり、話を聞いて欲しくて大声で話したり、気を引こうといろいろ行動に出している。・子どもが病気の時の対応（仕事の休みを取りづらい、休まなければならない、早退しなければならない）。・祖父母の力も借りて、家族で協力して子育てをしている様子が見られ、がんばっているなど感じる。急にお子さんの具合が悪くなったりした時に、保護者自身で看病したいが、仕事を休めないなど困っている様子が見られる。・病児、病後児保育が身近にない。祖父母に頼ることになるが、薬の飲ませ方などで意見が合わない時もある。・平日、常時診てもらえる小児科が町内にないこと。・病院（眼科、耳鼻科、皮膚科）、診療時間など。・歯医者など子どもが利用する医療施設の少なさ。・小児科が遠い。三病は曜日が決まっている（時間も）。急病の時や午後は困っている。・仕事が終わってからでも（せめて18時半くらいまで）診てくれる小児科がない。・子どもの準備が大変。自分のこと（仕事、プライベート含む）が出来ない。・仕事との両立。時間に余裕がなく、ゆっくと子育てを楽しめない。子どもと向き合えない。・仕事と子育ての両立。特にお母さんの負担は大きいと思う。・時間にゆとりを持たず、子どもの話を聞いてやれない。また聞こうとしていないのでは。子どもとの向き合い方が分からない親もいるのでは。・仕事と家庭を両立させていくという生活の中で、子育てに関わる時間的な余裕がない。その結果、子どもとの関わり方が希薄だったり、上手く伝わらないことで苦勞していると思う。・子どもたちとゆっくとコミュニケーションを取ったり、スキンシップを取る時間が少ないのではないか。 | |

- ・保護者同士のコミュニケーション（得意、不得意がある）。コミュニケーションが取れるようになることで、情報共有が図られ、負担も軽くなることが予想できる。
- ・核家族化が進み、子育てについて相談できる人がいない（ワンオペ育児）。
- ・核家族が多く、仕事をしているお母さんの負担が大きい。
- ・相談できる（子育てやいろいろな悩み）人が少ない。
- ・親同士の情報交換の場、コミュニケーションの場が少ない。困ったときに相談できる人がいるのか。
- ・共働きで子育てする保護者。ひとり親保護者と環境等の違いから子育てにいろいろな不安、悩みを抱えていると思う。
- ・兄弟みんな平等に接したいが、性格が違って難しい。
- ・障がいのある子どもに兄弟がいるが、兄弟への配慮に欠けてしまうことがしばしばある。親に負担をかけさせまいと「いい子」を演じている傾向があるので、公平に接するようにしたり、親に甘えられる時間を作ったりしている。子どもの障がいや固有の特性、行動と向き合いながら育てていくことは、心理的、身体的面で大きな負担を感じることもあるが、兄弟との関わりは社会性の基礎を育むチャンスだと思うので、将来社会に出て多様な人々と交流を持つトレーニングになっていると思いながら子育てをしている。
- ・子どもの遊ぶ場所がないこと。（安心して遊べる場所）
- ・近くに遊ぶ場所がない。（公園など、トイレなどもきれいな公園）
- ・経済面。厳しくインフルエンザ予防接種を受けられない児童がいる。
- ・クラブ活動に参加させたいが、保護者の負担が多くなっている。
- ・子どもの宿題を教えきれない。親の時代と子どもの現在の学習が違う。
- ・現在の子どもの遊びと保護者が子どもの頃の遊びが違うため、両者に食い違いがある。（ゲーム、おもちゃなど）
- ・保育所、幼稚園、学校等と兄弟で重複している世帯もあり、それぞれの立場でも苦勞している。

| | |
|--|--------------------------------------|
| 問2 | 保護者の皆さんが求めていると思われる子育て支援サービスの内容は何ですか。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・子どものしつけ（基本的な生活習慣、トイレトレーニング、食事面、言葉など） ・友だちと遊ぶことなど、集団生活を身につけさせる。 ・子どものありのままを受け止め、可能性を引き出し育てていくこと。 ・親の役割を担ってくれるところ。 ・子どもが一人ではなく、誰かといられる環境。 ・一緒に遊んだり、時には悩みを聞いたりして児童が安心して過ごせる場を求めている。 ・他学年の交流と社会性を身につける成長の場。 ・シングル家庭では、母親、父親の代わりになってくれる人。 ・延長保育、一時保育。 ・朝早くから夜遅くまで預けたい。 ・柔軟に保護者の勤務時間に合わせて保育してもらえらること。 ・病児、病後児保育、休日保育。 ・病児、病後児保育だと思うが、看護師のいない施設や感染を防ぐ隔離できる保育室が整っている施設がないため難しいと思う。病院内での病児、病後児保育ができるようになれば保護者も安心だし、保育士も通常と変わらない状況の中で園児を保育できると思う。 ・発熱などの病気でも一時的に預けられる所がほしい。 ・子どもが病気（インフルエンザや水ぼうそう等）をし、回復した後も数日出停の場合に保育してくれる施設（病児・病後児保育）。 ・保育料の引き下げ。 ・小児科の充実も一つではないだろうか。風邪などで他市町の受診をしているようである。受診無料とはいえ、交通費、時間がかかり、負担ではないかと思われる。 ・子どもが病気やケガをした時、いつでも（24時間）診てくれる病院が近くにあること（三病小児科）。 ・子育ての情報や悩みを共有できる仲間、子どもとともに遊べる場所。 ・子育てに関する相談、援助、窓口（不安や悩みなど）。 ・保育より子育てへの支援サービスをすることで、保護者の時間的な余裕を与えることが出来たり、悩みごとへの相談できる等の協力体制など。 ・子どもの発育、発達等の相談に対応すること。 ・室内で遊べる場所があれば良い。 ・公共の公園は安心して遊べるのか（安全面、衛生面、不審者）。 ・学校給食費無料化。 ・レンタルベビーカー、チャイルドシート、ラック。 | |

| 問3 | 教育・保育を提供する立場(先生方)として、困っていることは何ですか。 |
|--|------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士不足。 ・ 人手不足と給料の安さ。 ・ 調理員不足。 ・ 資格を持ち、専門的な職業で、行事等が近くなると時間に縛られる。しかし、給与が少なく、モチベーションが上がらない。 ・ 保育士が足りないせいか、子どもに目が届かない時がある。 ・ 子どもの遊び方は多様であるため、若い人たちをもっと増やすべき。 ・ 看護師が必要だと思う（ケガや投薬など）。 ・ 各施設に看護師さんの配置、緊急の医療が受けやすい町づくりをお願いしたい。 ・ 指導員に対する子どもの数が多い。 ・ 行事が多く、ゆったりとした時間を作ることが困難である。子どもたちは忙しい中にも少しの時間を使って遊んでいる。以上児の先生方は素晴らしいと思う。保育士の人数が多ければもっと余裕のある保育ができるし、行事のある日などの準備も夜遅くまで作業しなくて済むかもしれないと思う。保育士が足りない。タイムカードにしてほしい。 ・ 長時間保育に対応できる雇用体制の整備。 ・ 時間外労働。 ・ 子どもを持っていて、育休、産休など取りにくい体制。 ・ 毎日のように楽しく、きびきびと仕事をさせてもらっている。特に困っているということではないが、職員の上下関係が崩れてきているのではないかと最近感じる。 ・ 食育や生活習慣を身につけるため、家庭との連携が必要であるが、なかなか上手くいかないのが現状。 ・ 親との価値観（子育て）の違い。大きさのずれ。 ・ あまり子どもの成長に興味がないのかなと感じることがある。共働き、日々の家事でそこまで余裕がないのが現実だと思う。父母ともに疲弊しているように感じる。 ・ こちら側からすると、当たり前だと思っていること（子育てにおいて）でも伝えてあげないと分からない親が増えてきたと思う。 ・ 保護者への話しが伝わりにくい。コミュニケーションが上手にいかないからかと悩んでしまう。 ・ 朝8時から夕方6時まで体調を崩した時以外は保育所で過ごす子がいるので、少しでも家で過ごす時間を増やしてあげたいが、保護者に伝えることがなかなか難しく思う。 ・ 保育時間が長い子は、全体的に落ち着きか無く乱暴な所が見られる。親の仕事が休みの時は、自分のリフレッシュも大切であるが、時々、早めに迎えに来て、子 | |

どもとのふれあいをしてほしいと願う。こういう話を保護者にお話してもあまり伝わらない。共通の理解で子育てをしていったら子どもが変わると思う。

- ・集団生活でのしつけや教育をする幼稚園で、家庭でされるべき教育をせざるを得ない現状であること。
- ・子ども同士のけんかのほとんどが自己中心の考え方で発生している。相手を思いやる心が育っていないように思われる。すぐ冷やかし、けなしの行動に出る。自分が反対の立場になるとダメの言葉があるが、その場限りである。また人の話を聞くことが苦手な子が多い。家庭での対話不足等も影響があるのでは。
- ・夜遅くまでのテレビ、動画の視聴により、朝起きられず、朝食を食べない、食べても車の中、歯磨き、顔洗いができない。
- ・ゲームを与えて放置し、長時間やらせておいて、登園後もボーっとしている。
- ・保護者の方々は、仕事、家事、育児に毎日がんばっている姿がよく分かる。困っていることではないが、仕事が休みの日もお子さんはいつも同じ保育時間の子がいて、精神的に疲れている様子が多く見受けられる。家庭でゆったり親子の時間で心が満たされる日が増えれば、成長していく上で情緒の安定等につながっていくのではないかと思うが、保護者へ働きかけても難しいのが現状。
- ・親子のコミュニケーションの時間を大切にしてほしい。(預けている時間が異様に長い方へ)
- ・大人が子どもを自分の生活時間に合わせようとすることで生活習慣が身につかない。
- ・気になる子や自閉的傾向がみられる子が増えてきており、家庭においても規則正しい生活が求められるが、共働きや育児の悩み、家庭でのストレスを抱えている保護者が多いのが現状。
- ・気になる子が多い現場。発達障害と認定されない、すれすれのグレーゾーンの子への対応。その保護者への対応。
- ・発達障害児にあった環境づくりを求めると、集団で活動するために、他の児童がのびのび過ごせない。今ある環境で調和していくためには、職員がもっと必要であると感じる。発達障害時に対する学校での対応をどの段階でどのように進めているか等の情報を共有していきたいが、分からない部分が多い。保護者から聞きたいがデリケートな部分であり、信頼関係を築く努力が必要と感じている。
- ・配慮が必要な子に対し、保健師などの専門家の巡回が必要だと思う。取り組みや対応の改善、対策の助言をしてほしい。
- ・乳幼児の定期健診の結果の情報が保育所からの働きかけがなければ得られないこと(保護者からの健診結果は明確でない場合があること)。
- ・幼、保、小学校、保健師などの連携の充実(気軽に声かけ、見学ができるような環境)。
- ・気になる子へ対応することがあるが、今までの経験と保育の専門書を見て、子どもと日々試行錯誤しながら接している。スキルアップのためにも研修等、参加し

て学ぶ機会があればと思う。

- ・質向上のための勉強会（講演会）
- ・時折感情が爆発したような言動をする子どももいる。その前に自分でどうしたらいいのか。その時、職員や親はどう対応すればいいのか。詳しく学べる機会があれば良い。
- ・言いづらいこともあるので、家庭教育学級などで有名な方から話しを聞く機会を設け、少しでも日々の子育てを考えるチャンスになればいいのでは。
- ・落ち着きがなく、すぐ感情的になるといった子が多くなってきているように思う。学校や家庭との連携があるので、これからもそのつながりを大切に事故、けがのないよう対処していきたい。
- ・施設の老朽化。
- ・環境面。例えば雪が積もったとき、通園道路や駐車場の除雪など補助してもらいたい（同じ教育を受ける学校と同じように）。
- ・アンケートを取ったあと、その内容を公開するだけでなく、内容はどのようにしていくのか。各施設だけでできる問題と行政が携わらないとできないこともある。行政と施設側との話しを出し合う場があると良い。
- ・災害時（台風など）幼児施設も学校と同じように休園するようにしても良い。
- ・子どもたちの様子を見てみると、親子でのふれあいや一緒に体を動かして遊ぶ機会が減ってきているように感じる。町の方でも親子で遊んだりふれあうイベントを増やしていけばと思う（ゲームなどではなく、自然や昔の遊びなど）。
- ・児童館と放課後子ども教室は同じ建物で実施し、交流活動が実施されているが、問題点として、迎え時の自動車の混雑、官界の混雑や賑やかさが気になる。夕方5時頃の街灯の暗さが安全面からみて危険がいっぱいである。
- ・保育所と児童館を一緒に考えている保護者がいる。
- ・児童館について、子どもの世話をすることは保育の分野ではあるかもしれないが、教え育てることは教育の分野であると感じる（小学生に保育園児への接するようなやり方が気になる。）。
- ・行事を行うことについて、行事内容と職員の人数が釣り合わない。
- ・現在の施設が古く、保育用の建物ではないので危険が多い。
- ・保護者との密接な関わりが出来ていないように感じる。
- ・施設としての役割が明確ではない。

| | |
|---|---|
| 問4 | 幼児教育や保育環境の充実など、子育ての環境や支援に関してご意見がございましたらご記入ください。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士不足による保護者への負担が大きい。保育士が不足していることで、様々な子育て支援を行うことが難しい。 ・ 質の高い保育が提供できるよう、保育士不足の解消、資質向上に向けての取り組みを進めていけば良いと思う。 ・ 保育士不足の解消に協力していただきたい。 ・ 看護師または保健師を配置していただきたい。 ・ 感染症への対応に追われたりすることが以前より増えたので、人的、経済的援助をしていただきたい。 ・ 仕事量の多さに対して賃金が低いと思う。国の最低基準の配置では、最低に近い保育の質になってしまう。基準を変える、帰るまでの間を自治体独自の基準にしてカバーしていかないと、保育の質は上がらないと思う。こんな状況なので、保育士不足がますます続く、どうか自治体のお力をお願いします。このままでは現場の保育士が倒れてしまいます。 ・ 早番でも中番でも帰宅はみんな同じ時間。早番は早番の時間に帰宅したい。保護者も仕事が忙しいから時間まで預けているので仕方がないが、休みや予防接種の日はゆっくり休んで、子どもの体調も考えてほしいと思う。 ・ 子どもの様子が多様化し、トラブルになることが多く対応していると他児の見守りが手薄になる。ゆとりある教育、保育、安全等のためにも人員を増やしてほしい。 ・ 普段は保育園での生活時間が長いので、平日休みや仕事が早く終わっている時は、早く迎えに来て、子どもと関わる時間を増やす（大事にする）ことを、子ども健診の時などに親に教えてほしい。 ・ 子どもの発達段階に応じた関わり方や必要な栄養など、子育てに関する知識が欠けている親が増えているように感じる。子どもが産まれてからではなく、生まれる前に、男性・女性ともに、ある程度の知識を知る場が必要になってくると思う。家庭での教育が確かなものとなることで、幼児教育や保育環境の充実に自然とつながっていくのではと思う。 ・ 本来、幼児に必要なのでは、しっかりとした家庭教育（しつけも含む）をされて、教育機関で幼児としての教育を受けること。家庭教育力の低下により、考える力、能力が育たず、学力低下にもつながる。保護者の子育てに対する意識向上、それに伴う家庭教育力の向上の必要性を強く感じる。楽になる支援ではなく、預かりながらも的確に子育てについて、指導できる場、支援が必要と思う。分かっているけども、子どもとどう向き合ったら良いのか分からない親の方もいると思う。 ・ 参観日に家庭教育学級を開催し、青森県発達障害支援センターの方から講演して | |

いただき、終了後、子育てや子どもの発達で困っていることなどを相談できる場を設けたが、残念ながら利用する方がなかった。そこで、気軽に家庭の悩みや子どもの発達、成長と、保健師の方と連携を取り、月に1度、保護者の送迎時に来ていただき、「ホットサロン」的な雰囲気できれいに何でも話し、その会話の中から自然にアドバイスに結びつき、保護者の体や心、育児と保護者の不安が少しでも取り除かれ、楽しい子育てができるような支援をお願いしたい。保護者が個々に余裕があると、子どもの情緒の安定へつながり、相乗効果が期待される。

- ・子どもの保護者と日々接しているが、気になることなど、保育所の中でとどめておくのではなく、保健師とも情報交換し、就学時には学校の先生とつながって、みんなで子どもを見守っていかれたらと思う。
- ・保健師との情報交換があまりないように思う。定期的に巡回してもらって、子ども一人一人の様子、保育士からの情報と合わせて、健診の際に役立ててほしい。
- ・仕事の多様化、生活の多様化によって、保育施設へのニーズが変化していると思う。また子育てに対しての親の考え方も多様化している。保育施設、学校、地域全体で子育てのサポートが必要と感じる。
- ・もしかして家の子……。発達障害、自閉症、など、チェック項目に家庭でチェックできる紙の配布。同時に相談窓口の案内（時間も）。
- ・近隣の小児科、耳鼻科、皮膚科など（歯科）の情報の表示
- ・インフルエンザ、溶連菌、胃腸炎、ノロウイルスなど、集団感染の病気の際に休まなくてはいけない期間は、医師のOKをもらってから登園するというマナーを、入所手続きの際、保健師さんからの正しい指導があった方がよい。
- ・保育料無料とただ言うだけでなく、両親の働き方も共通して考えていくべきだと思う。（賃金、時間等）
- ・小学校入学時、すべてのお子様に対し、ジャージ（上下）のお祝い等があればうれしいのでは。
- ・アンケートに記入することでどこまで声が届いているのだろうかと思う。
- ・学校が終わってからスポーツ少年団等の活動をしたいが、送迎ができない、お金がかかる等の家庭の事情でできないという児童がいる。そういう面でも相談できる場所があると良いかもしれない。
- ・夕方お迎えの時間になると暗くなる上、混雑する時もある。子どもたちが帰るときに危なくないように照明灯をもう少し増やしてほしいと感じる。
- ・対象児童を高学年への拡大が必要であると思う。
- ・保護者、学校、地域との連携が大切。
- ・子どもといっても、心が満たされている子と満たされていない子がいる。トラブルの原因になりやすい部分でもあるため、職員の増員と親やその他機関の協力は大切だと感じる。そのための環境づくりを充実してほしい。

(5) 今後の課題

国や県の動向、子ども・子育て支援ニーズ調査、子育て支援アンケートの結果を踏まえて、本町における今後の子ども・子育て支援に関する課題を次により整理します。

① 少子化の進行

本町の就学前の子どもの数は、年々減少しています。子どもの減少によって、子どもたち同士の交流機会が少なくなり、子どもの社会性が育まれにくくなり、まちの元気、活力が衰退してしまいます。多くの子育て世代が居住し、子どもを安心して産み育てられる環境づくりが求められています。

② 保育、放課後児童クラブ、病児病後児保育などの多様な保育サービスの需要の高まり

就学前の子どもの数が減少している中であっても、保育利用者は横ばいの状態が続いています。就労していない母親の就労意向も依然として高く、保育を利用する子どもの割合は高い水準を維持していくと推察されます。前計画期間において、町立保育所の統廃合、認定こども園の整備を行いました。今後は、施設数を維持し、待機児童が発生しないよう適正な定員管理が求められています。

また、放課後児童クラブにおける高学年の受け入れや、病児・病後児保育を望む声が多くなっています。共働き世帯が増えたことで、仕事と家庭を両立させるための子育て支援サービスの充実が求められています。

③ 子育ての孤立化

少子化、核家族化が進行する中で育ってきた世代が、子どもを持ち、親として子育てをしています。身近に相談できる人が少ない中で、初めての子育てを手探りで行う、または孤立化してしまうことも珍しくありません。

子育ての孤立化は、子どもへの虐待の大きな要因の一つと言われています。思い通りにならない子育てに不安や悩みを抱え、それがストレスとなって子どもに向けられてしまいます。このような状況を招くことのないよう、地域や行政が協力しながら、子育て世帯を孤立化させない環境づくりが求められています。

④ 経済的負担の不安

子育てに携わる者にとっては、肉体的、精神的負担に加え、経済的負担も大きな不安要素です。当町においては、保育料の軽減、医療費の助成、子育てサポート祝金の支給等の事業を実施してきましたが、高校卒業まで切れ目なく子どもを支援する施策が求められています。